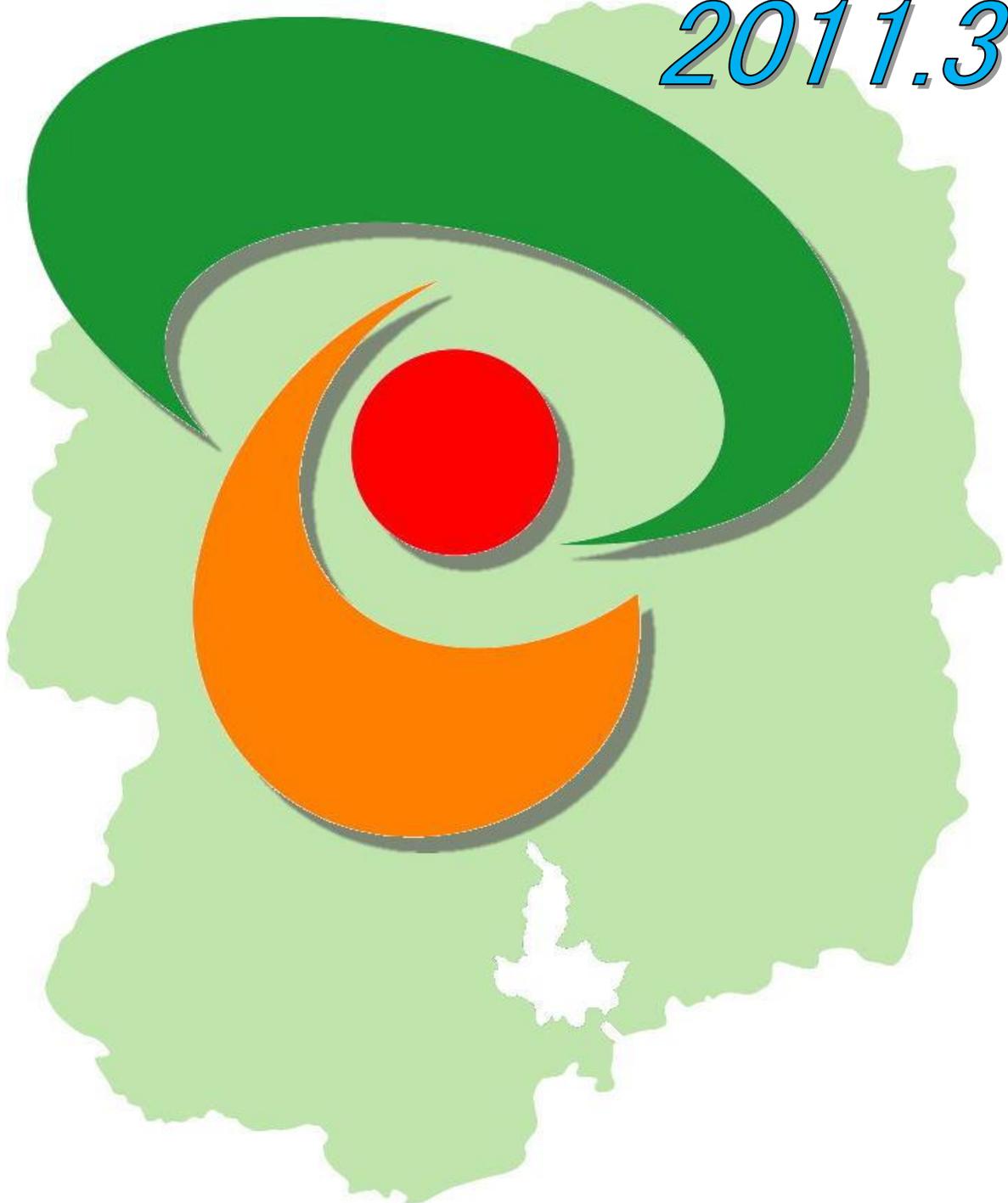


目で見る下野市

下野市統計グラフ

2011.3



目 次

I 自然条件

(1) 概要	3
(2) 位置	4
(3) 面積	5
(4) 地価動向	6

II 人口

(1) 人口	8
(2) 人口構成	9
(3) 世帯数	10
(4) 1世帯あたりの人数	11
(5) 人口密度	12
(6) D I D	13

III 産 業

1 産業	
(1) 産業別就業者数	14
(2) 産業（大分類）別事業所数	15
(3) 産業（大分類）別従業者数	16
2 商業	
(1) 商店数	17
(2) 従業者数	18
(3) 年間商品販売額	19
3 工業	
(1) 事業所数	20
(2) 従業者数	21
(3) 製造品出荷額	22
4 農業	
(1) 農家数	23
(2) 経営耕地面積	24
(3) 販売目的で作付けした作物	25
(4) 家畜飼養頭羽数	27
(5) 農業産出額	28
5 林業	
(1) 林野面積	29
(2) 特用林産物生産量	30

IV 医療・社会福祉

1 医療	
(1) 一般病院の病床数	31
(2) 一般病院の医師数	32
(3) 死因別死亡者数	33
2 国民健康保険	34
3 介護保険	
(1) 被保険者数	35
(2) 要介護者数	36
(3) サービス施設利用者数	38
4 生活保護	
(1) 生活保護世帯数	39
(2) 生活保護人数	40
(3) 生活保護率	41

V 上下水道

1 上水道	
(1) 水道普及率	42
2 下水道	
(1) 公共下水道利用者数	43
(2) 農業集落排水施設利用者数	44
(3) 下水道普及率	45

VI 建 設

(1) 道路改良率	46
(2) 道路舗装率	47

VII 衛生・環境

(1) ごみ総排出量	48
(2) 一般ごみの排出量	49
(3) 資源ごみの排出量	50
(4) し尿収集量	51

VIII 幼稚園・保育園

(1) 幼稚園	52
(2) 保育園	53

IX 教 育

- | | |
|------------|----|
| (3) 小学校 | 54 |
| (4) 中学校 | 55 |
| (5) 高等学校 | 56 |
| (6) 大学・大学院 | 57 |

X 安全安心

- | | |
|--------------|----|
| (1) 火災 | 58 |
| (2) 交通事故件数 | 59 |
| (3) 交通事故死傷者数 | 60 |
| (4) 刑法犯認知件数 | 61 |

XI 財 政

- | | |
|--------|----|
| 一般会計決算 | 62 |
|--------|----|

XII 行 政

- | | |
|-----------|----|
| (1) 組織機構図 | 65 |
| (2) 選挙 | 66 |



市の木「けやき」



市の鳥「うぐいす」

表紙の説明

背景に栃木県と、下野市（白抜き部分）。その上の市章は、下野市の「下」の文字をモチーフに、豊かな自然環境とともに健康で明るい都市の発展する姿を表現しています。中央の赤は新たな文化の創造と安全、安心な未来を象徴しています。



市の花「ゆうがお」

I 自然条件

(1) 概要

下野市は、平成18年1月10日、河内郡南河内町、下都賀郡石橋町と同国分寺町が合併して誕生しました。県内の平成の大合併では、唯一、郡域を越えた合併でした。栃木県の中南部に位置し、都心から約85km圏にあり、首都圏の一端を構成しています。南北約15.2km、東西約11.5kmで、北は県都宇都宮市、南は小山市、東は真岡市と上三川町、西は栃木市と壬生町に接し、面積は74.58km²です。

東に鬼怒川と田川、西に思川と姿川が流れる高低差のない、古来より開けた平坦で安定した自然災害も少ない地域で、JR宇都宮線の自治医大駅を中心にニュータウンによる新市街地が広がり、日光街道沿いの小金井や石橋の旧宿場町とその周辺の田園地帯とともに下野市を形成しています。

天武天皇の白鳳時代には下野薬師寺が建立され、日本三戒壇の一つが設置されました。8世紀には聖武天皇の詔により下野国分寺・国分尼寺が建立され、古代東国における仏教文化の中心地として栄えた歴史があり、下野市の名称の由来となっています。

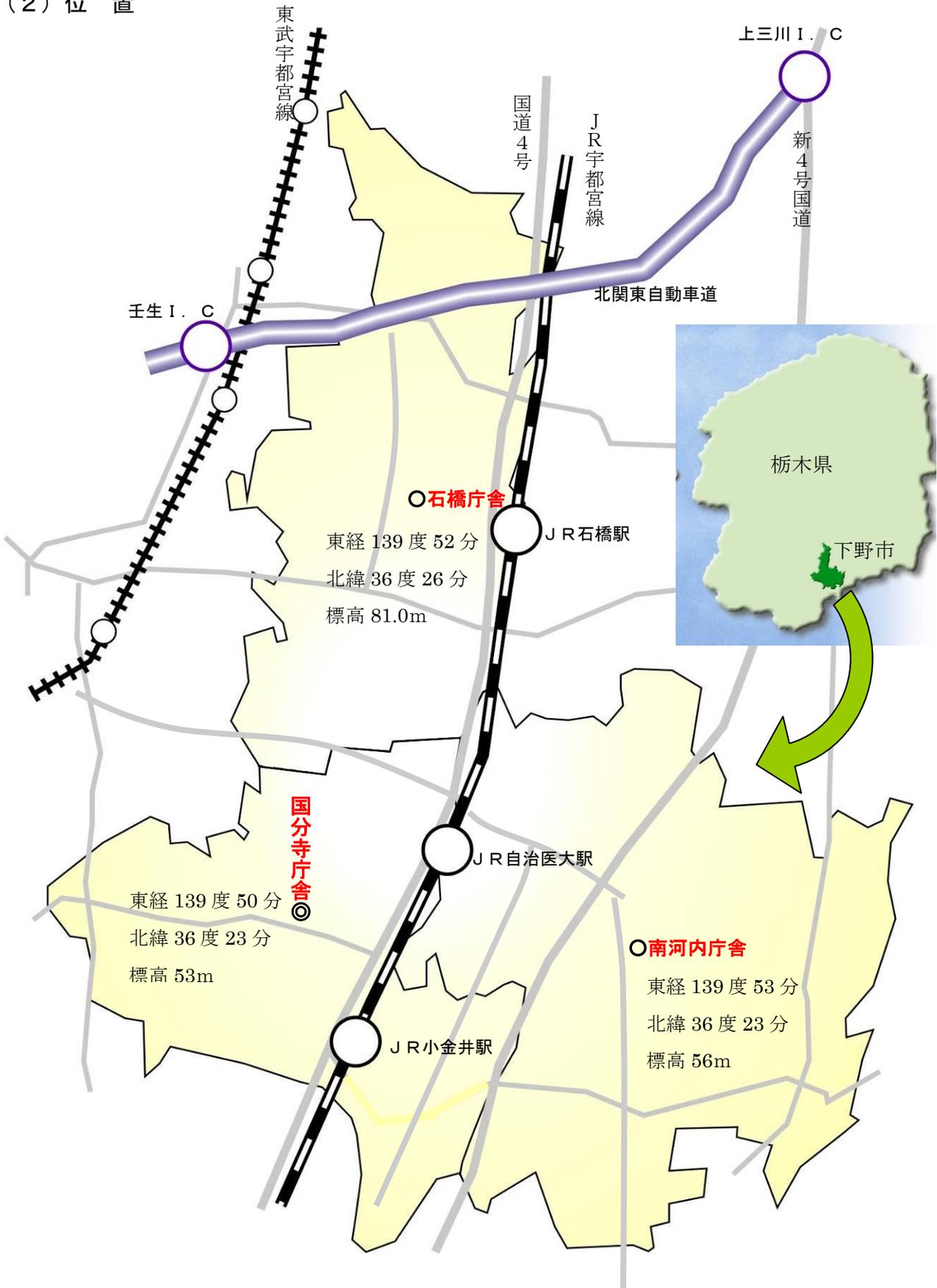


下野国分寺及び
国分尼寺復元図



下野薬師寺復元回廊

(2) 位置



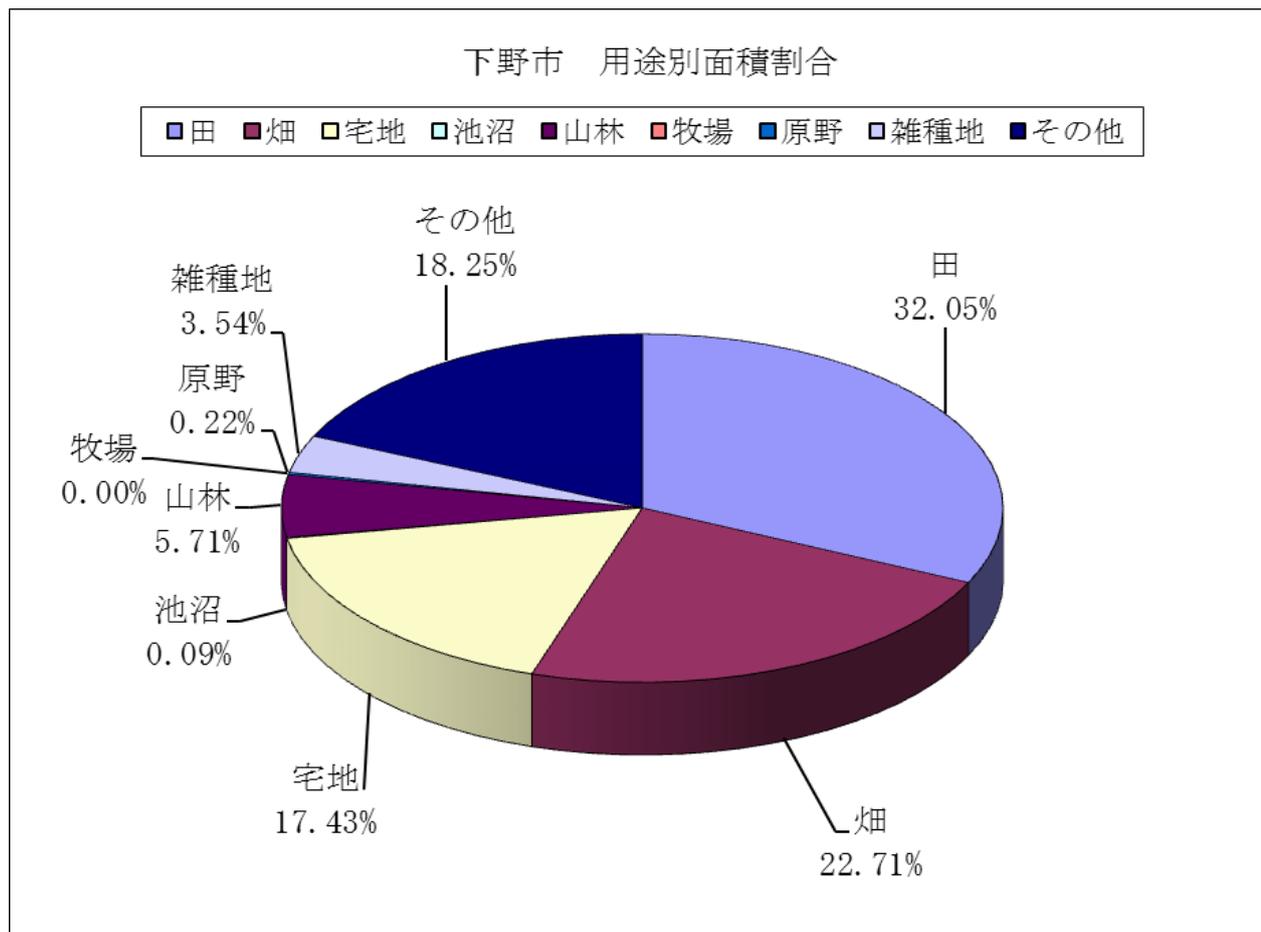
(3) 面積

用途別面積

単位：km²

	面積	田	畑	宅地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他
下野市	74.58	23.90	16.94	13.00	0.07	4.26	0.00	0.16	2.64	13.61

資料：栃木県統計年鑑（平成21年1月1日現在）



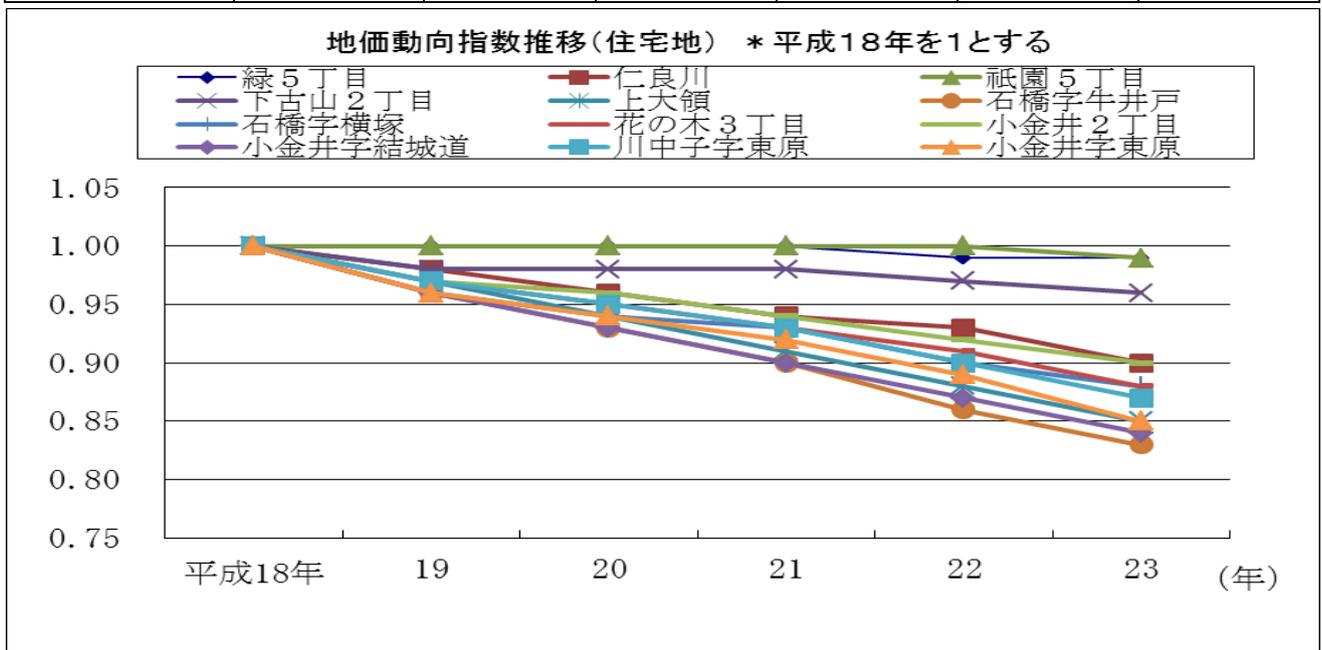
(4) 地価動向

平成23年の住宅地（基準地）の地価の推移動向をみると、いずれの基準地も下落傾向が見られる。緑5丁目・祇園5丁目・下古山2丁目についてはまだ下落率は低く平成18年比0.95以上だが、石橋字牛井戸・小金井字結城道は平成18年比0.84以下となっている。

住宅地の地価

単位：円/m²

基準地	平成18年	19	20	21	22	23
緑5丁目	71,500	71,300	71,300	71,300	71,100	70,800
仁良川	48,500	47,400	46,600	45,800	45,100	43,800
祇園5丁目	80,100	79,800	79,800	79,800	79,700	79,300
下古山2丁目	53,700	52,700	52,700	52,500	52,200	51,800
上大領	46,800	45,200	44,000	42,800	41,400	40,000
石橋字牛井戸	51,800	49,900	48,200	46,500	44,800	43,100
石橋字横塚	59,100	57,000	55,800	55,000	53,200	51,800
花の木3丁目	50,300	48,900	47,900	47,000	45,600	44,200
小金井2丁目	52,200	50,700	49,900	49,100	47,800	47,100
小金井字結城道	57,500	55,400	53,700	52,000	50,200	48,400
川中子字東原	48,900	47,300	46,300	45,300	43,900	42,400
小金井字東原	48,200	46,500	45,500	44,300	42,800	41,100



資料：地価公示

解説

地価公示は、地価公示法第2条第1項の規定に基づき、国土交通省土地鑑定委員会が毎年1月1日における全国の標準地の正常な価格を調査、公示するものです。地価公示制度は、一般の土地の取引価格の指標、不動産鑑定士等の鑑定評価の規準、公共事業用地の取得価格算定の規準とされ、また、相続税評価、固定資産税評価の目安、国土利用計画法に基づく土地取引の届出制における価格算定の規準等となるものです。

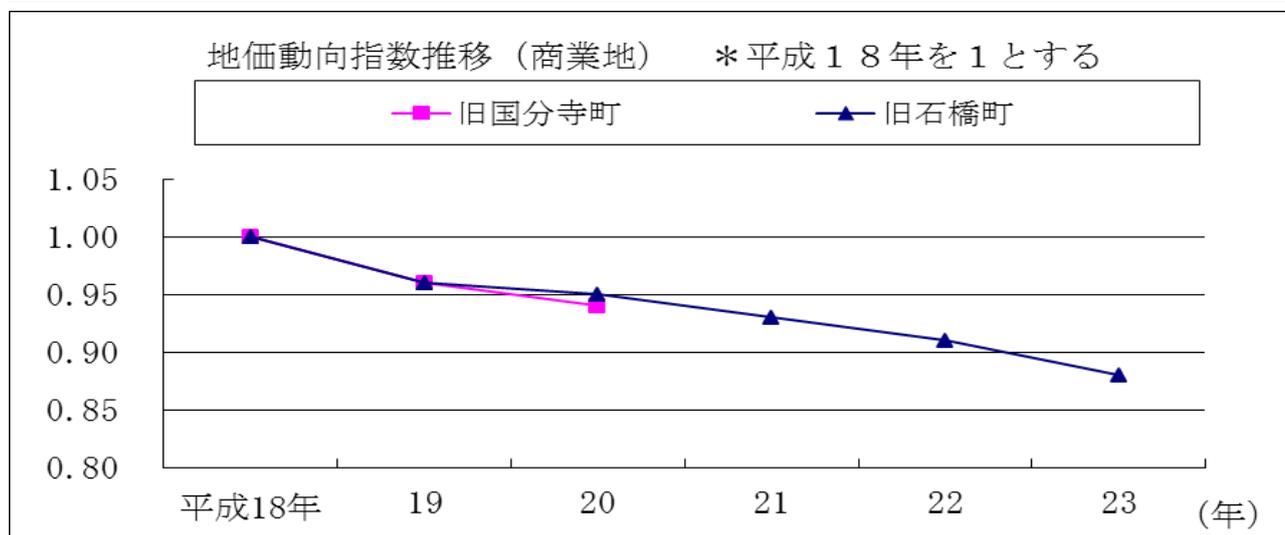
商業地は旧南河内町に基準地が設定されていないため、旧石橋町、旧国分寺町の2町の動向となっていたが、平成21年は旧国分寺町の基準地の設定がなくなり、旧石橋町のみとなった。商業地の地価動向は、平成18年から平成23年まで下落傾向を示している。

旧石橋町は平成18年(70,500円/㎡)から平成23年(62,000円/㎡)まで8,500円/㎡減少しており、旧国分寺町は平成18年(69,700円/㎡)から平成20年(65,700円/㎡)までに4,000円/㎡減少している。

商業地の地価

単位：円/㎡

旧町別	平成18年	19	20	21	22	23
南河内町	-	-	-	-	-	-
石橋町	70,500	68,000	66,800	65,900	63,900	62,000
国分寺町	69,700	67,100	65,700	-	-	-



資料：地価公示

参考

基準地について

旧石橋町：石橋字宿並東側

旧国分寺町：小金井字下原（平成20年まで）

解説

住宅地 都市計画区域内の第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域において、居住用の建物の敷地の用に供されている土地並びに都市計画法第8条第1項第1号に定める用途指定のされていない都市計画区域及び都市計画区域外において、居住用の建物の敷地の用に供されている土地。

商業地 都市計画区域内の近隣商業地域、商業地域及び準住居地域において、商業用の建物の敷地の用に供されている土地並びに用途指定のされていない都市計画区域及び都市計画区域外において、商業用の建物の敷地の用に供されている土地。

Ⅱ 人 口

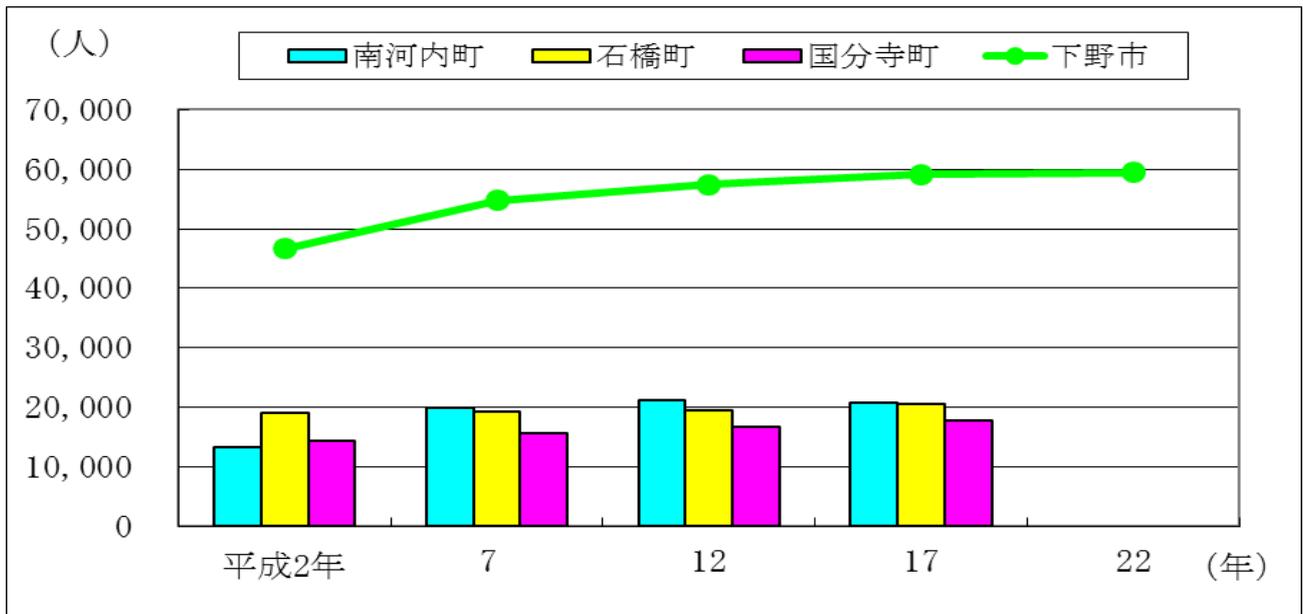
(1) 人口

下野市の国勢調査人口推移をみると、平成2年（46,673人）から平成22年[59,464人（速報値）]までに12,791人増加している。

人口推移

単位：人

旧町別	平成2年	7	12	17	22
南河内町	13,224	19,844	21,235	20,873	—
石橋町	19,039	19,174	19,498	20,494	—
国分寺町	14,410	15,691	16,714	17,765	—
下野市	46,673	54,709	57,447	59,132	59,464 (速報値)



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

人口

単位：人

	平成18年	19	20	21	22
下野市	59,205	59,349	59,488	59,392	59,311

資料：栃木県毎月推計人口調査（各年10月1日現在）

(2) 人口構成

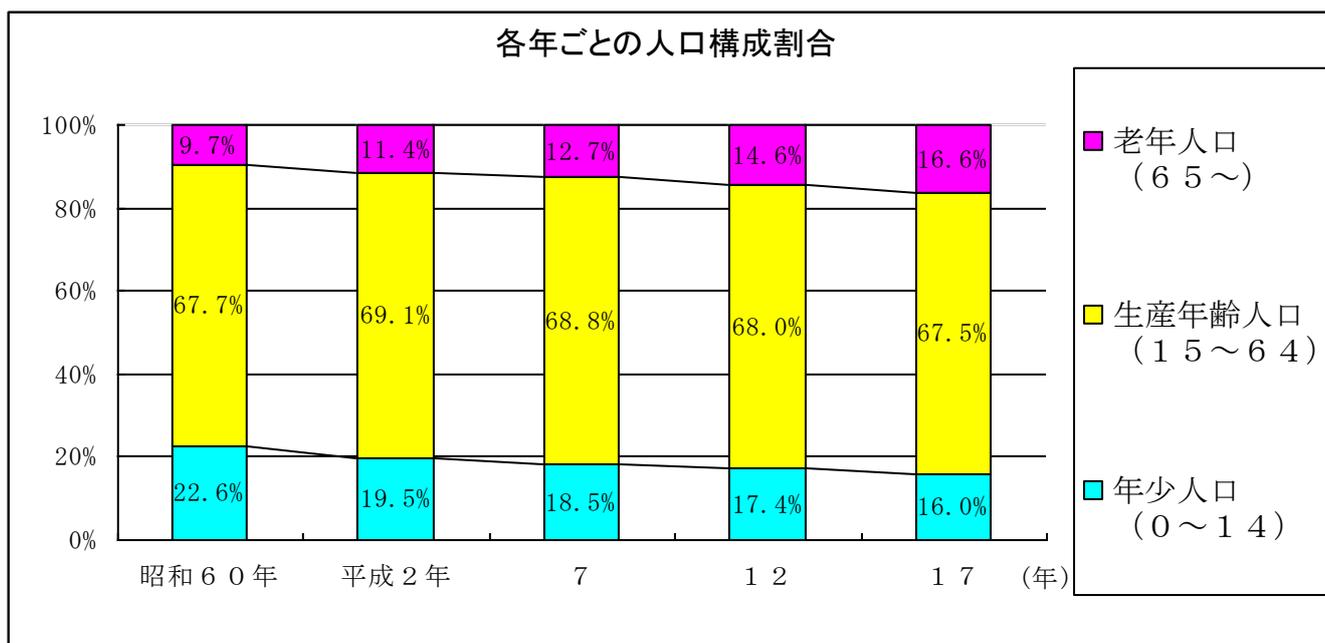
下野市の人口構成の推移をみると、昭和60年から平成17年までに年少人口は714人減少、生産年齢人口は9,463人増加、65才以上の老年人口は5,426人増加している。

人口構成

単位：人

区分	昭和60年	平成2年	7	12	17
年少人口 (0～14)	10,140	9,089	10,119	9,993	9,426
生産年齢人口 (15～64)	30,406	32,262	37,654	39,057	39,869
老年人口 (65～)	4,364	5,313	6,934	8,376	9,790

各年ごとの人口構成割合



※3町の合計を下野市として作成

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

解説

国勢調査・・・我が国に常住するすべての人を対象として、5年ごと（10月1日現在）に行われる調査で、男女の別、出生の年月、配偶関係、国籍、労働力状態、従業上の地位、産業、職業、世帯の種類、住宅、従業地・通学地などについての調査です。

推計人口・・・国勢調査の結果による人口及び世帯数を基礎として、これに住民基本台帳法及び外国人登録法による毎月の出生、死亡、転入、転出者数を加減して、毎月1日現在で推計している。

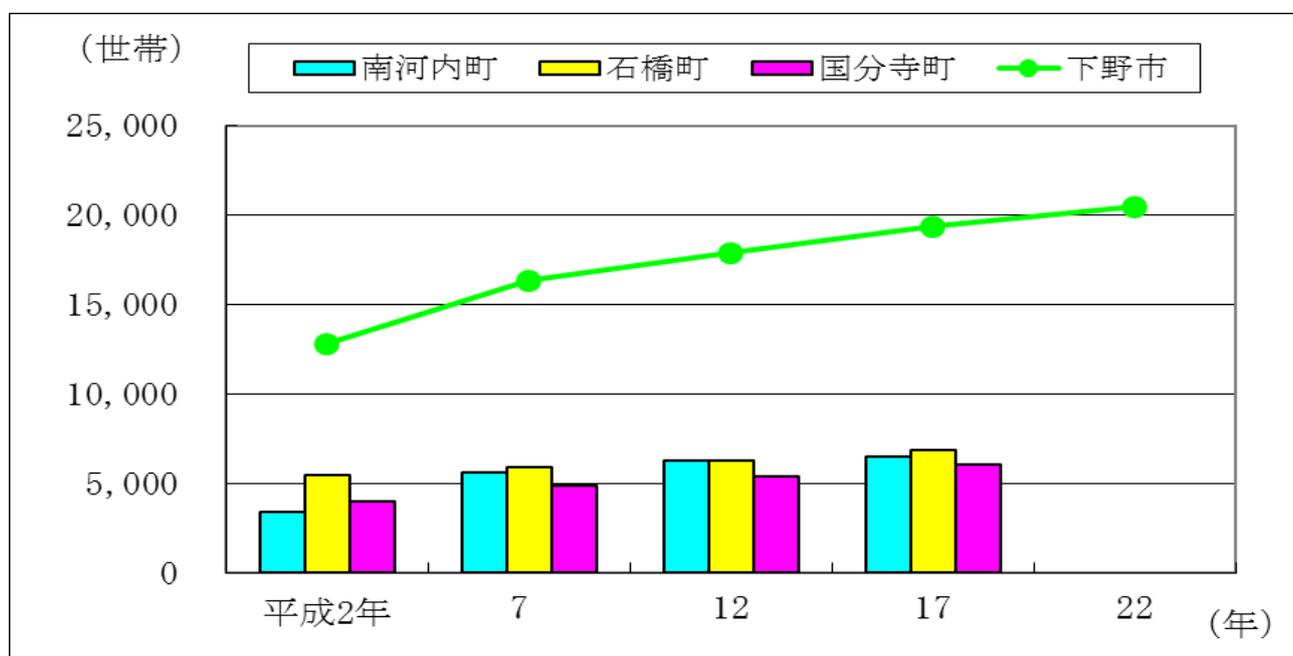
(3) 世帯数

下野市の世帯数の推移をみると、平成2年（12,814世帯）から平成22年[20,492世帯（速報値）]までに7,678世帯増加している。

世帯数の推移

単位：世帯

旧町別	平成2年	7	12	17	22
南河内町	3,364	5,629	6,261	6,481	—
石橋町	5,466	5,894	6,257	6,854	—
国分寺町	3,984	4,832	5,383	6,043	—
下野市	12,814	16,355	17,901	19,378	20,492 (速報値)



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

		世帯数					単位：世帯
	平成18年	19	20	21	22		
下野市	19,670	19,938	20,170	20,250	20,456		

資料：栃木県毎月推計人口調査（各年10月1日現在）

(4) 1世帯あたりの人数

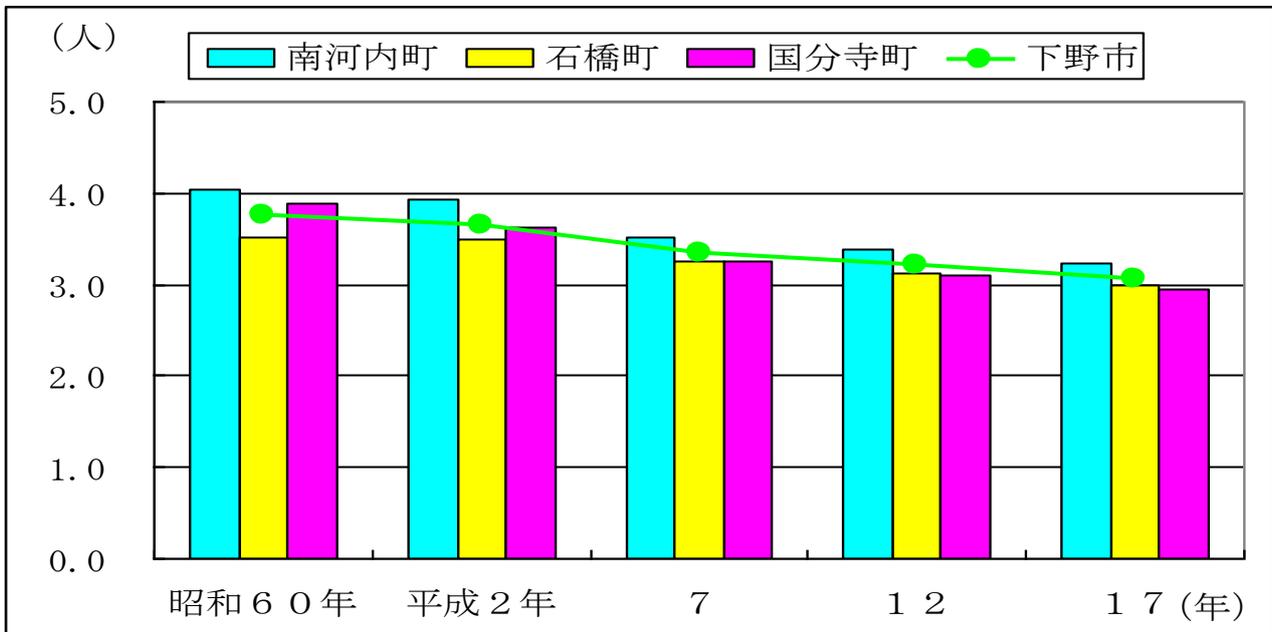
下野市の1世帯あたりの人数の推移をみると、昭和60年(3.8人)から平成17年(3.1人)までに0.7人減少している。

旧町別にみると、昭和60年から平成17年にかけて南河内町では0.8人減少、石橋町では0.5人減少、国分寺町では1.0人減少している。

1世帯あたりの人数

単位：人／世帯

旧町別	昭和60年	平成2年	7	12	17
南河内町	4.0	3.9	3.5	3.4	3.2
石橋町	3.5	3.5	3.3	3.1	3.0
国分寺町	3.9	3.6	3.2	3.1	2.9
下野市	3.8	3.6	3.3	3.2	3.1



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

参 考

平成17年国勢調査1世帯あたりの人数

単位：人／世帯

宇都宮市	2.51	鹿沼市	3.04	今市市	3.01	さくら市	3.18
足利市	2.74	日光市	2.63	小山市	2.80	那須烏山市	3.22
栃木市	2.94	今市市	3.01	矢板市	2.97		
佐野市	2.82	小山市	2.80	那須塩原市	2.81		

10月1日現在

(5) 人口密度

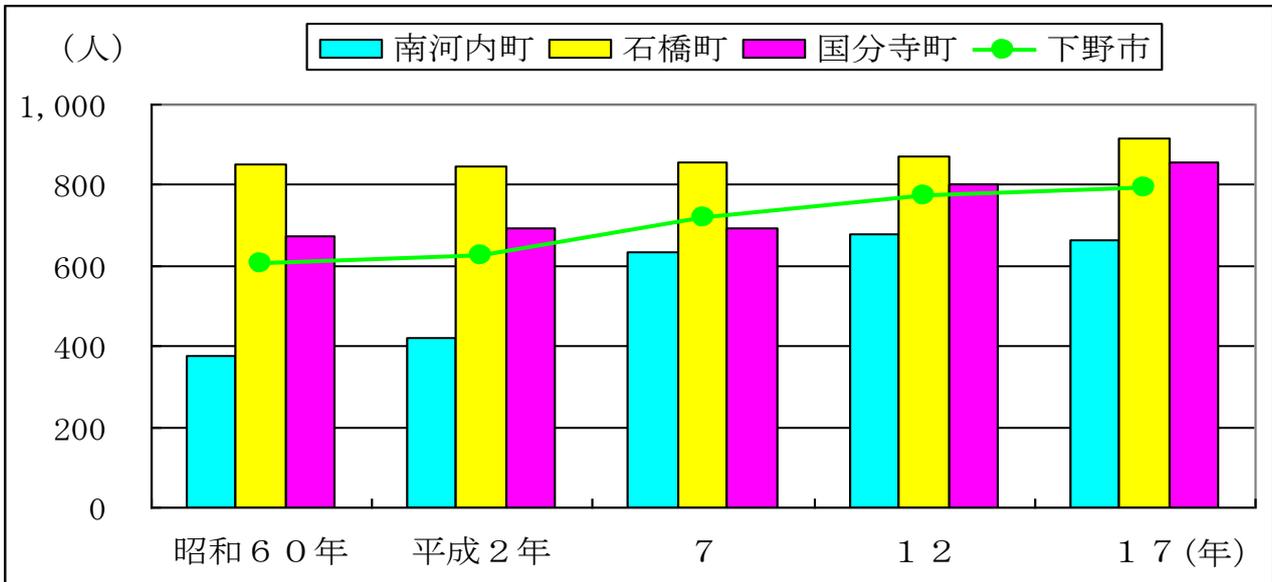
下野市の人口密度の推移をみると、昭和60年(602.2人/km²)から平成17年(792.9人/km²)までに190.7人/km²増加している。

旧町別にみると、昭和60年から平成17年にかけて南河内町では291.0人/km²増加、石橋町では61.1人/km²増加、国分寺町では179.1人/km²増加している。

人口密度

単位：人/km²

旧町別	昭和60年	平成2年	7	12	17
南河内町	374.8	421.8	633.0	677.4	665.8
石橋町	852.6	848.8	854.8	869.3	913.7
国分寺町	675.0	692.8	692.8	803.6	854.1
下野市	602.2	625.8	716.4	770.3	792.9



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

参 考

平成17年国勢調査 都市別人口密度

単位：人/km²

宇都宮市	1466.1	鹿沼市	300.1	真岡市	593.8	さくら市	329.9
足利市	898.4	日光市	51.0	大田原市	223.2	那須烏山市	178.6
栃木市	674.6	今市市	254.8	矢板市	209.1		
佐野市	348.0	小山市	933.2	那須塩原市	194.0		

10月1日現在

(6) DID (人口集中地区)

DID

単位 面積：km²、人口密度：人/km²

旧町別	人口	面積	人口密度
南河内町	10,363	1.28	8,096.1
石橋町	9,752	1.94	5,026.8
国分寺町	7,941	1.69	4,698.8
下野市	28,056	4.91	5,714.1

※ 3町の合計を下野市として作成

※ 現行のDIDは、平成17年国勢調査にて設定されたものです。



解説

DID(Densely Inhabited District : 人口集中地区) とは

1. 市区町村の境界内において人口密度の高い（約 4,000 人/km²以上の）国勢調査区を基礎単位として用い、
2. これらが隣接して5,000人以上を有していること。

上の1と2をどちらも満たしている市街地がDIDとなります。

このDIDの人口と面積は、国勢調査で得られた結果を用いて算出しています。

Ⅲ 産 業

1 産業

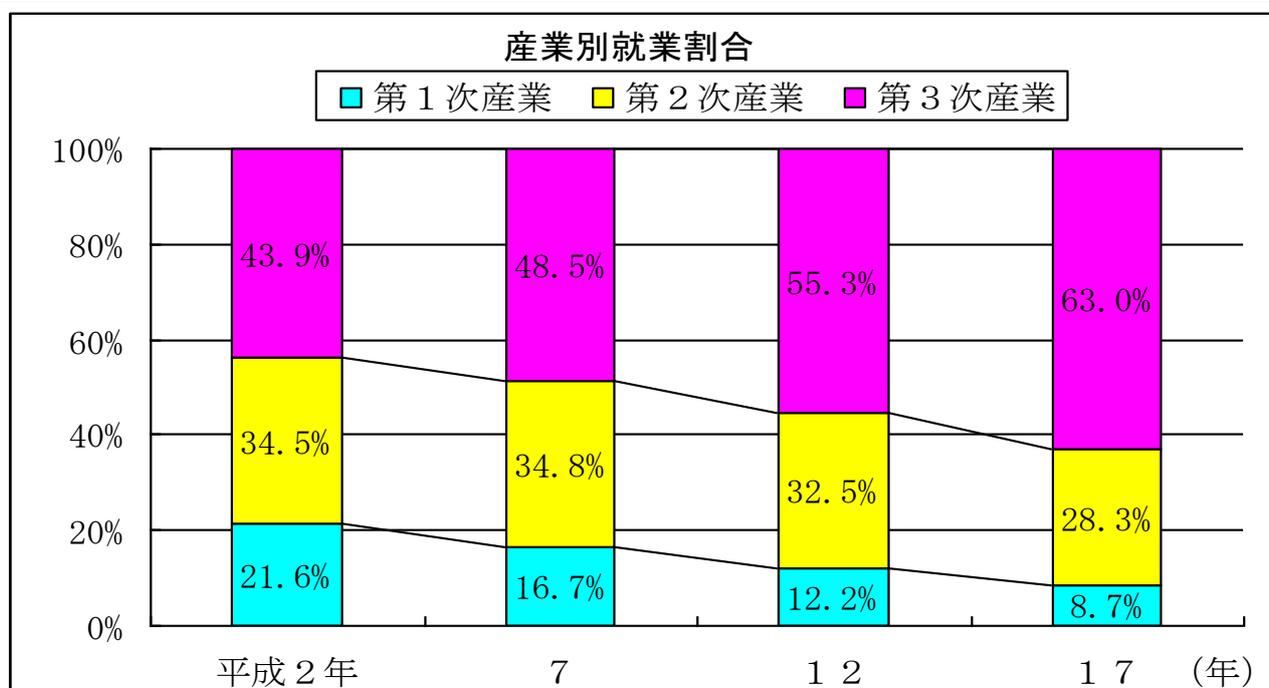
(1) 産業別就業者数

下野市の産業別就業者数の推移をみると、平成2年から平成17年までに、第1次産業は1,576人減少、第2次産業は245人減少、第3次産業は6,535人増加している。

産業別就業者数の推移

単位：人

区 分	平成2年	7	12	17
第1次産業	4,129	3,517	2,971	2,553
第2次産業	8,585	9,376	9,302	8,340
第3次産業	11,991	15,947	17,387	18,526



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

解 説

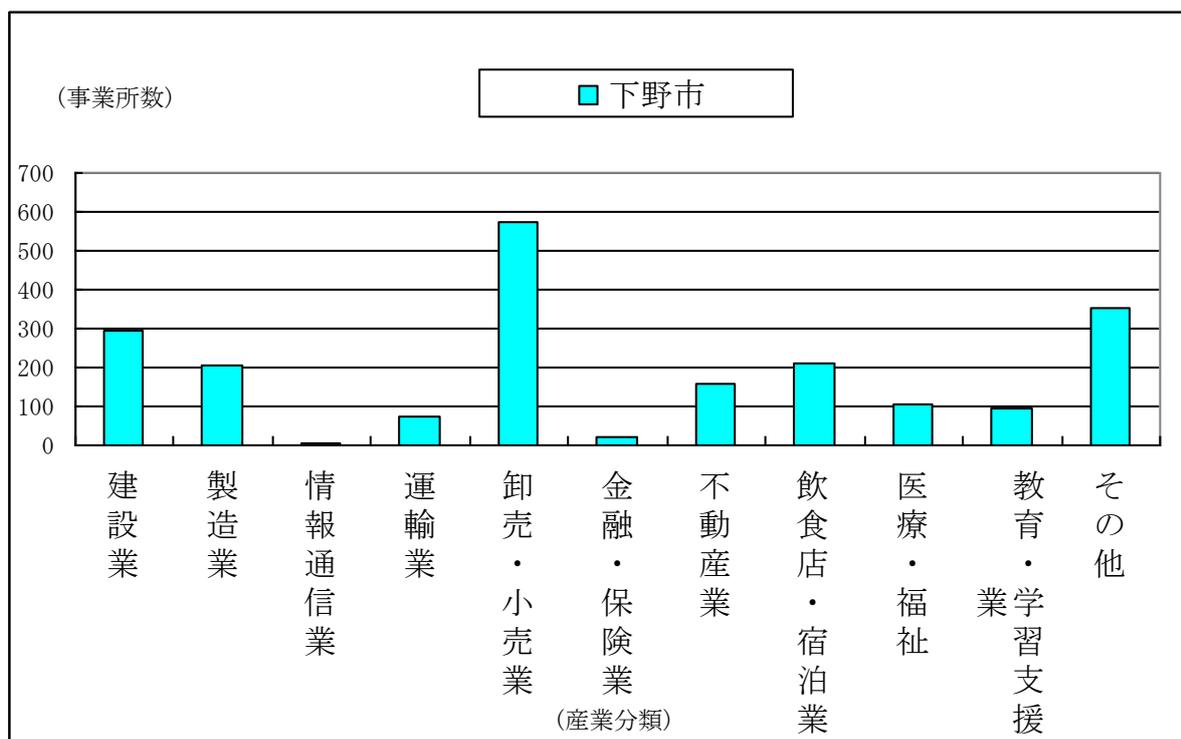
本標準産業分類は、統計調査の結果を産業別に表示する場合の統計基準として、事業所において社会的な分業として行われる財貨及びサービスの生産又は提供に係るすべての経済活動を分類したもので、統計の正確性と客観性を保持し、統計の相互比較性と利用の向上を図ることを目的として、昭和24年10月に制定されています。その具体的な内容は、事業所において行われる農業、建設業、製造業、卸売業、小売業、金融業、医療、福祉、教育、公務などすべての経済活動を、大分類、中分類、小分類及び細分類の4段階に分類したものです。

(2) 産業（大分類）別事業所数

平成18年の下野市の産業（大分類）別事業所数を見ると、卸売・小売業（575）が最も多く、2番目に建設業（294）、3番目に飲食店・宿泊業となっている。

産業（大分類）別事業所数

	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援業	その他
下野市	294	203	4	75	575	20	160	209	103	95	353



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：平成18年事業所・企業統計調査

(10月1日現在)

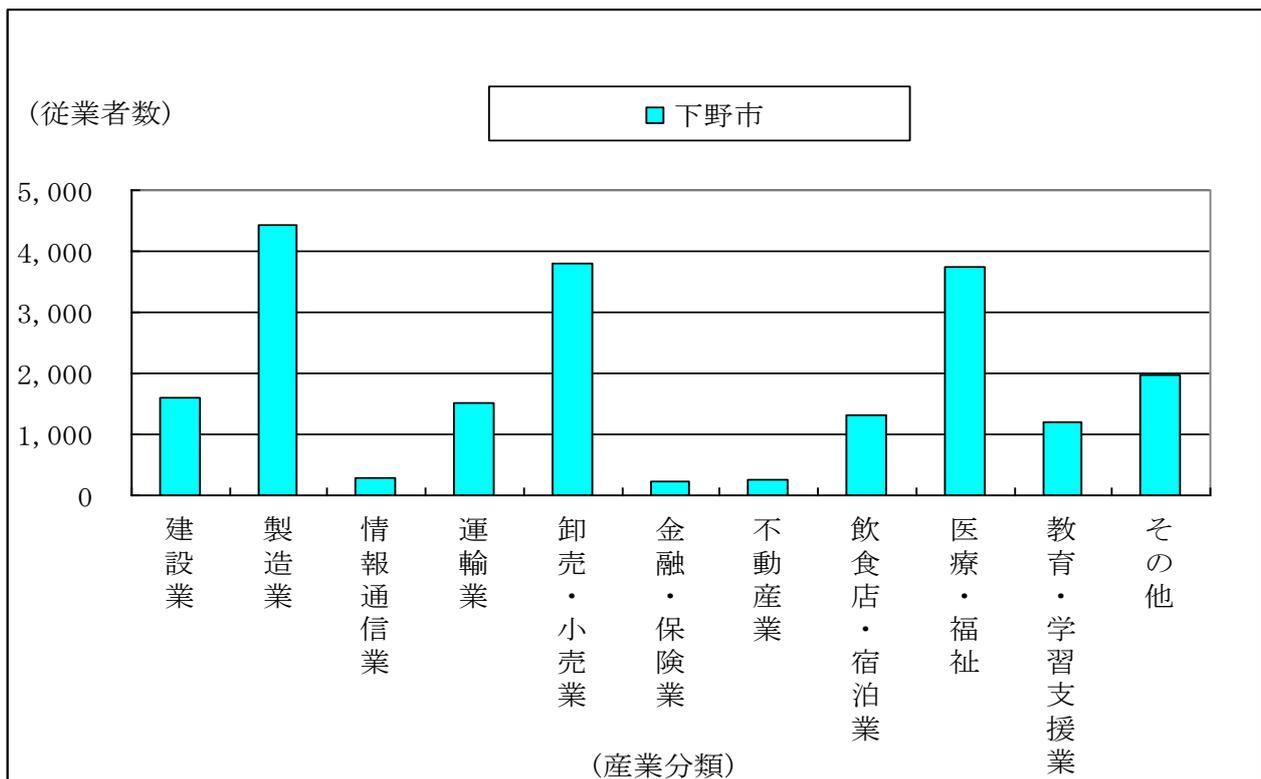
(3) 産業（大分類）別従業員数

平成18年の下野市の産業（大分類）別従業員数を見ると、製造業（4,434人）が最も多く、2番目に卸売・小売業（3,795人）、3番目に医療・福祉（3,750人）、4番目に建設業（1,594人）となっている。

産業（大分類）別従業員数

単位：人

	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援業	その他
下野市	1,594	4,434	285	1,513	3,795	227	253	1,327	3,750	1,202	1,967



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：平成18年事業所・企業統計調査
(10月1日現在)

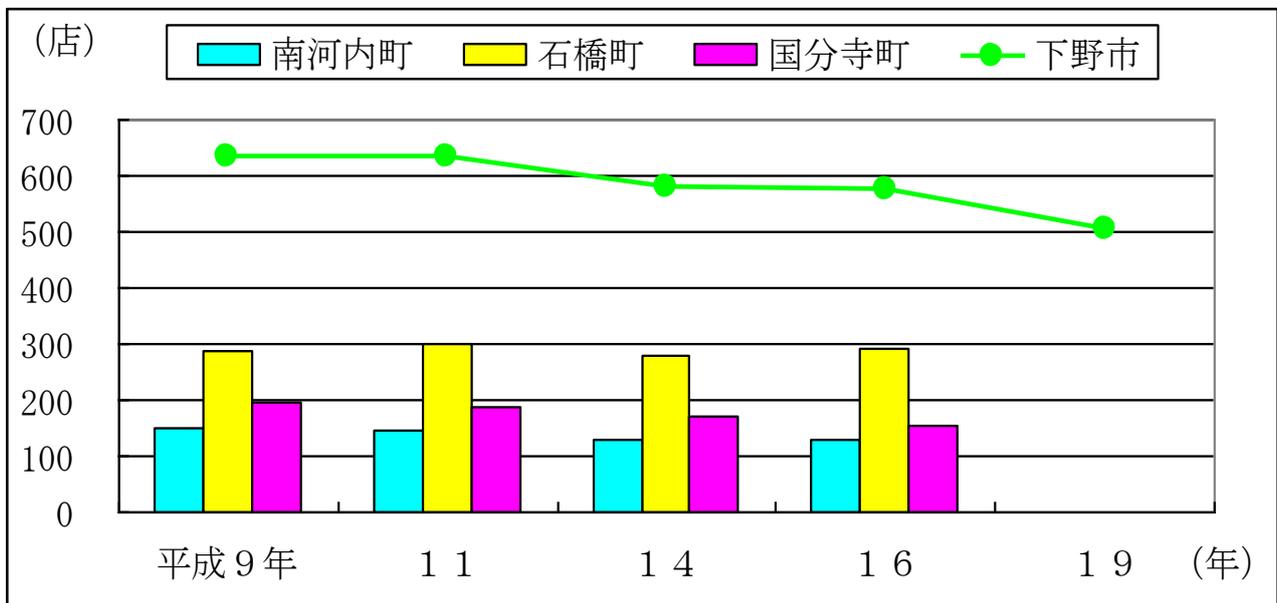
2 商業

(1) 商店数

下野市の商店数の推移をみると、平成9年（634）から平成19年（510）までに124減少している。

商店数の推移

旧町別	平成9年	11	14	16	19
南河内町	151	145	129	129	—
石橋町	288	301	279	291	—
国分寺町	195	188	170	155	—
下野市	634	634	578	575	510



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：商業統計調査（各年6月1日）

参 考

平成19年商業統計調査の商店数

宇都宮市	5,901	日光市	1,304	那須塩原市	1,306
足利市	2,222	小山市	1,810	さくら市	439
栃木市	1,211	真岡市	783	那須烏山市	386
佐野市	1,957	大田原市	898		
鹿沼市	1,263	矢板市	420		

6月1日現在

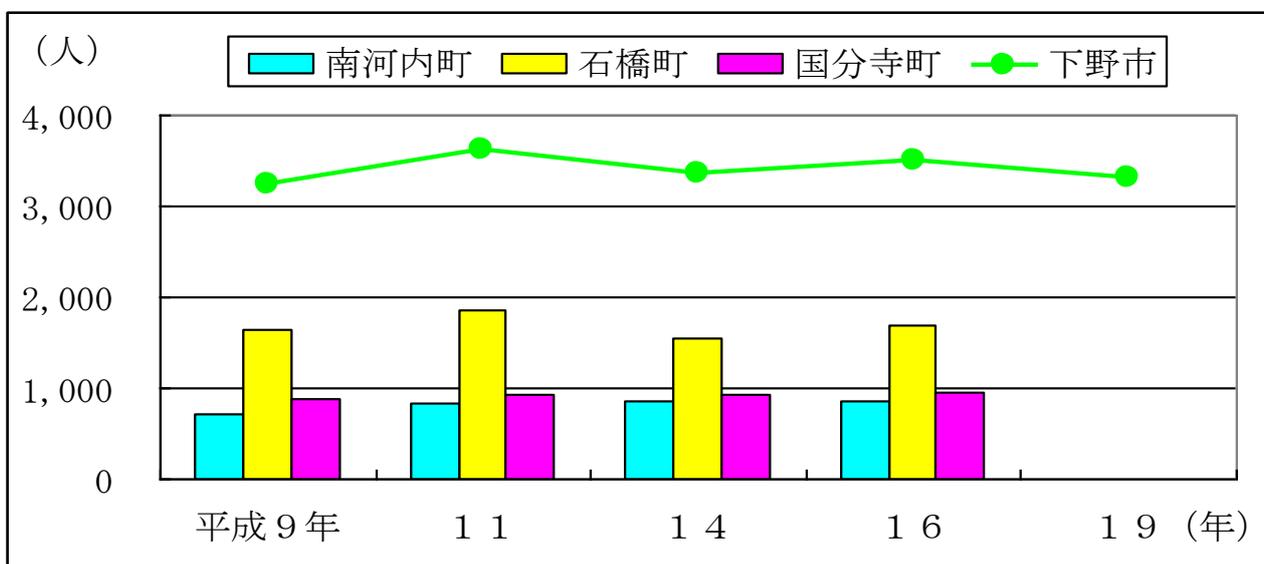
(2) 従業者数

下野市の商業従事者数の推移をみると、平成9年(3,247人)から平成19年(3,348人)までに101人増加している。

商業従業者数の推移

単位：人

旧町別	平成9年	11	14	16	19
南河内町	717	842	863	857	—
石橋町	1,649	1,846	1,547	1,685	—
国分寺町	881	939	940	952	—
下野市	3,247	3,627	3,350	3,494	3,348



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：商業統計調査(各年6月1日)

参考

平成19年商業統計調査の商業従事者数

単位：人

宇都宮市	50,129	日光市	6,945	那須塩原市	8,654
足利市	13,143	小山市	13,605	さくら市	2,897
栃木市	7,189	真岡市	5,345	那須烏山市	1,770
佐野市	11,159	大田原市	5,781		
鹿沼市	7,547	矢板市	2,394		

6月1日現在

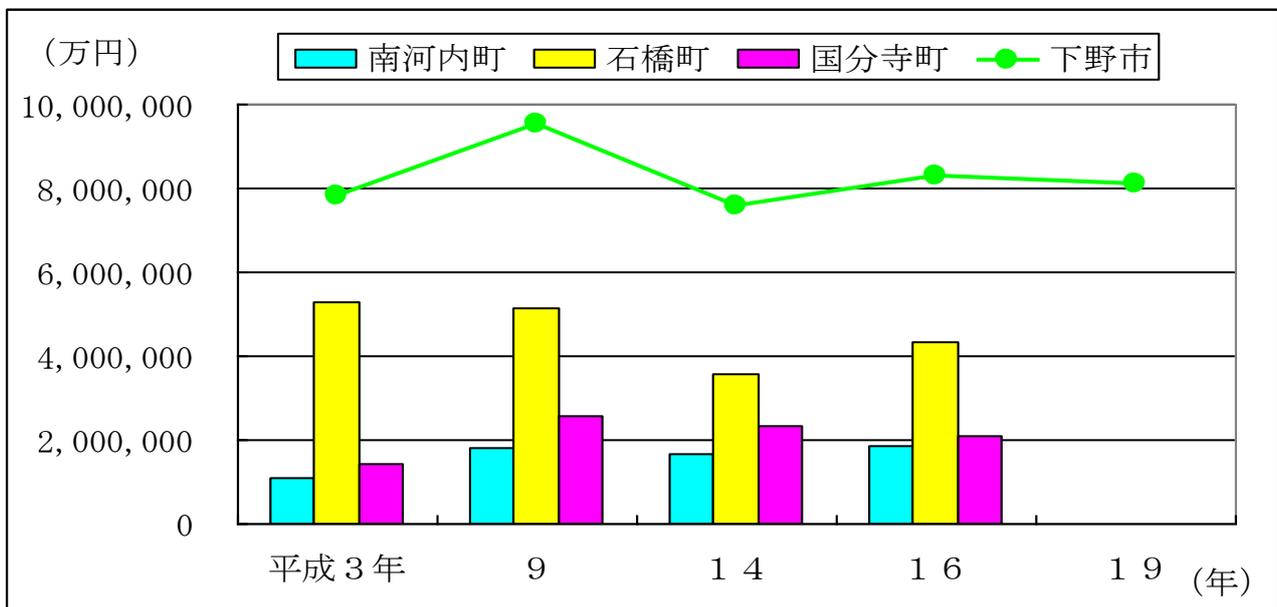
(3) 年間商品販売額

下野市の商店の年間商品販売額の推移をみると、平成9年(9,532,311万円)から平成19年(8,139,404万円)までに1,392,907万円減少している。

商店の年間商品販売額の推移

単位：万円

旧町別	平成9年	11	14	16	19
南河内町	1,813,201	1,658,276	1,651,579	1,862,820	—
石橋町	5,163,766	5,287,075	3,583,253	4,350,057	—
国分寺町	2,555,344	2,160,242	2,324,199	2,092,870	—
下野市	9,532,311	9,105,593	7,559,031	8,305,747	8,139,404



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：商業統計調査（各年6月1日）

参 考

平成19年商業統計調査の年間商品販売額

単位：万円

宇都宮市	283,592,566	日光市	12,063,082	那須塩原市	20,931,756
足利市	34,516,387	小山市	52,954,994	さくら市	6,379,026
栃木市	18,165,140	真岡市	11,765,060	那須烏山市	2,661,898
佐野市	28,356,757	大田原市	12,925,127		
鹿沼市	20,414,965	矢板市	4,865,349		

6月1日現在

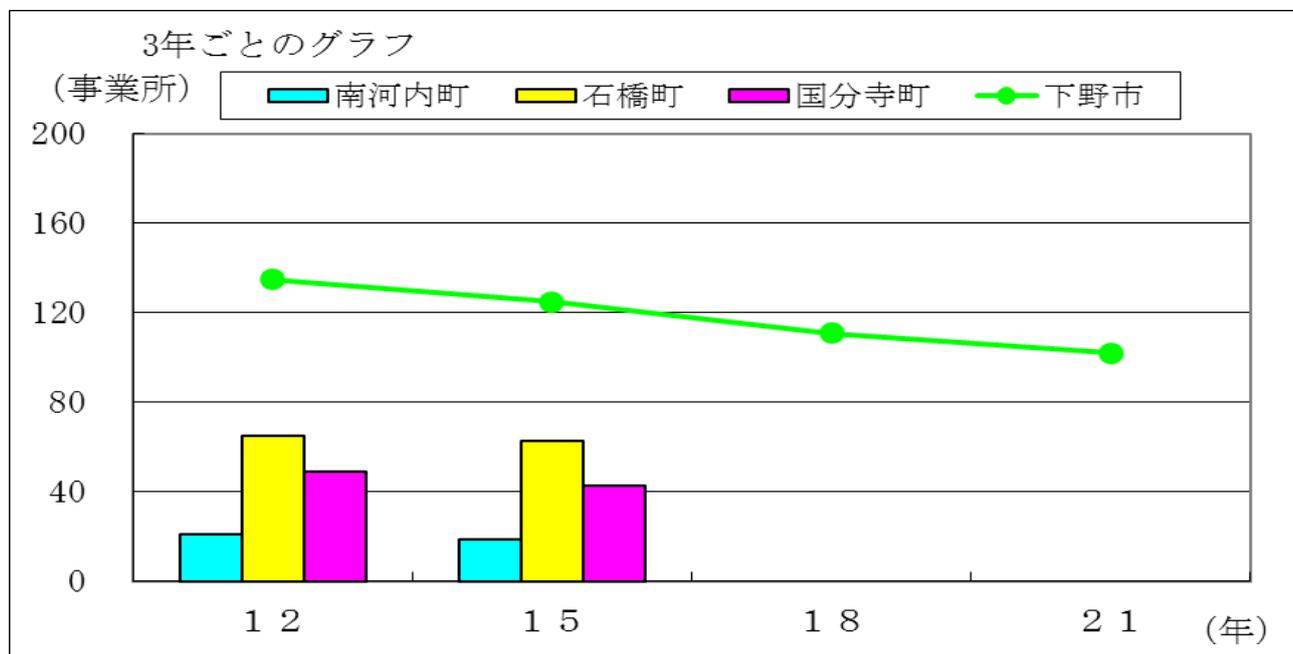
3 工業

(1) 事業所数

下野市の生産活動を行う事業所数の推移をみると、平成9年(138)から平成21年(102)までに36減少している。

生産活動を行う事業所数の推移

旧町別	平成12年	14	15	16	17	18	19	20	21
南河内町	21	21	19	20	21	—	—	—	—
石橋町	65	61	63	59	58	—	—	—	—
国分寺町	49	43	43	42	44	—	—	—	—
下野市	135	125	125	121	123	111	108	111	102



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：工業統計（各年12月31日現在）

※ 18年以降は下野市のみ

（従業者4人以上の事業所）

参 考

平成21年工業統計調査の事業所数

宇都宮市	606	日光市	218	那須塩原市	242
足利市	717	小山市	307	さくら市	105
栃木市	205	真岡市	207	那須烏山市	126
佐野市	486	大田原市	183		
鹿沼市	450	矢板市	75		

12月31日現在

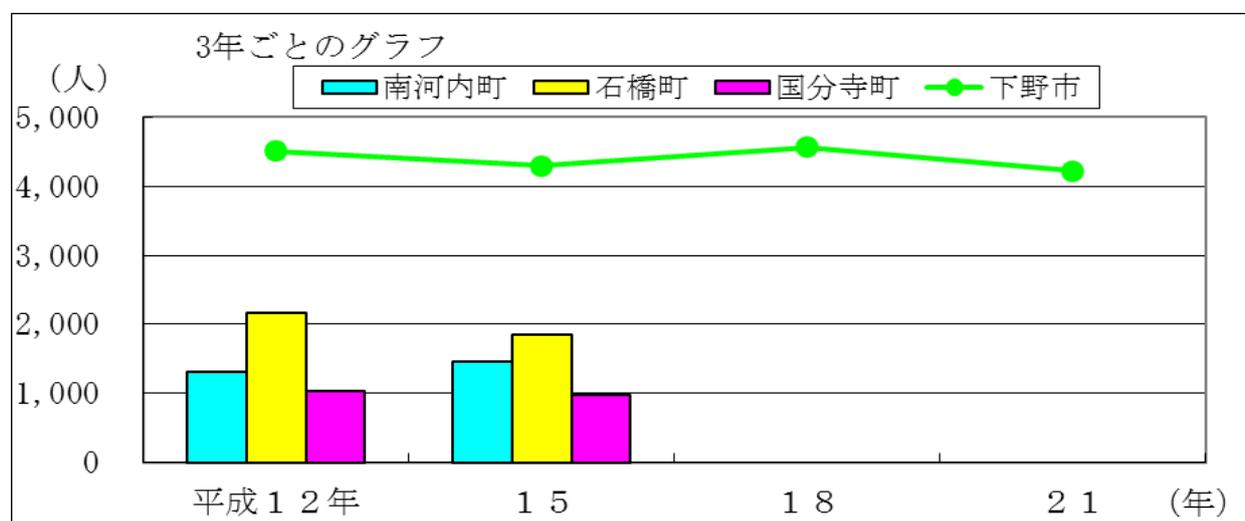
(2) 従業者数

下野市の生産活動を行う事業所の従業者の推移をみると、平成12年(4,512人)から平成21年(4,224人)までに288人減少している。

生産活動を行う事業所の従業者数の推移

単位：人

旧町別	平成12年	14	15	16	17	18	19	20	21
南河内町	1,311	1,492	1,466	1,418	1,425	—	—	—	—
石橋町	2,173	2,203	1,853	1,870	1,837	—	—	—	—
国分寺町	1,028	1,086	979	1,021	1,121	—	—	—	—
下野市	4,512	4,781	4,298	4,309	4,383	4,571	4,576	4,609	4,224



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：工業統計（各年12月31日現在）

※ 18年以降は下野市のみ

（従業者4人以上の事業所）

参考

平成21年工業統計調査の事業所の従業者数

単位：人

宇都宮市	33,726	日光市	7,314	那須塩原市	10,783
足利市	16,070	小山市	16,245	さくら市	4,157
栃木市	6,444	真岡市	13,148	那須烏山市	3,291
佐野市	13,298	大田原市	12,031		
鹿沼市	13,632	矢板市	4,411		

12月31日現在

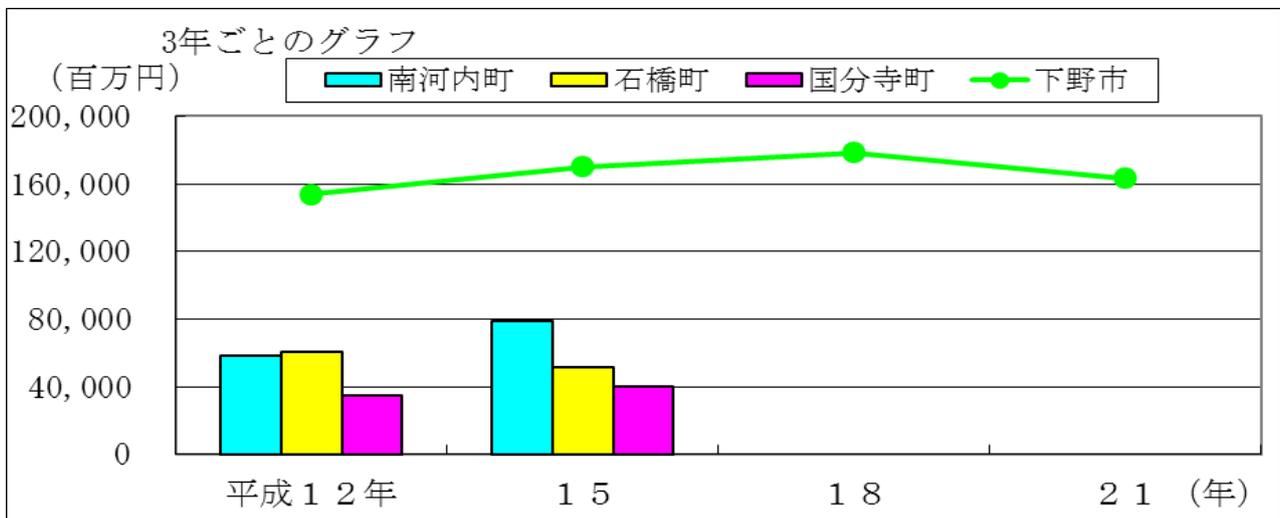
(3) 製造品出荷額等

下野市の製造品出荷額の推移をみると、平成12年（153,736百万円）から平成21年（163,320百万円）までに9,584百万円増加している。

製造品出荷額の推移

単位：百万円

旧町別	平成12年	14	15	16	17	18	19	20	21
南河内町	58,189	56,150	78,711	85,090	81,422	—	—	—	—
石橋町	60,579	58,343	51,768	51,916	59,039	—	—	—	—
国分寺町	34,968	36,762	39,694	45,954	43,442	—	—	—	—
下野市	153,736	151,255	170,173	182,960	183,903	178,662	218,105	207,873	163,319



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：工業統計（各年12月31日現在）

※ 18年以降は下野市のみ

（従業者4人以上の事業所）

参 考

平成21年工業統計調査の製造品出荷額

単位：万円

宇都宮市	158,929,392	日光市	33,083,073	那須塩原市	32,213,495
足利市	35,001,021	小山市	49,816,681	さくら市	15,056,803
栃木市	24,493,955	真岡市	50,211,503	那須烏山市	4,606,023
佐野市	31,940,851	大田原市	62,521,490		
鹿沼市	35,134,247	矢板市	41,713,599		

12月31日現在

4 農業

(1) 農家数

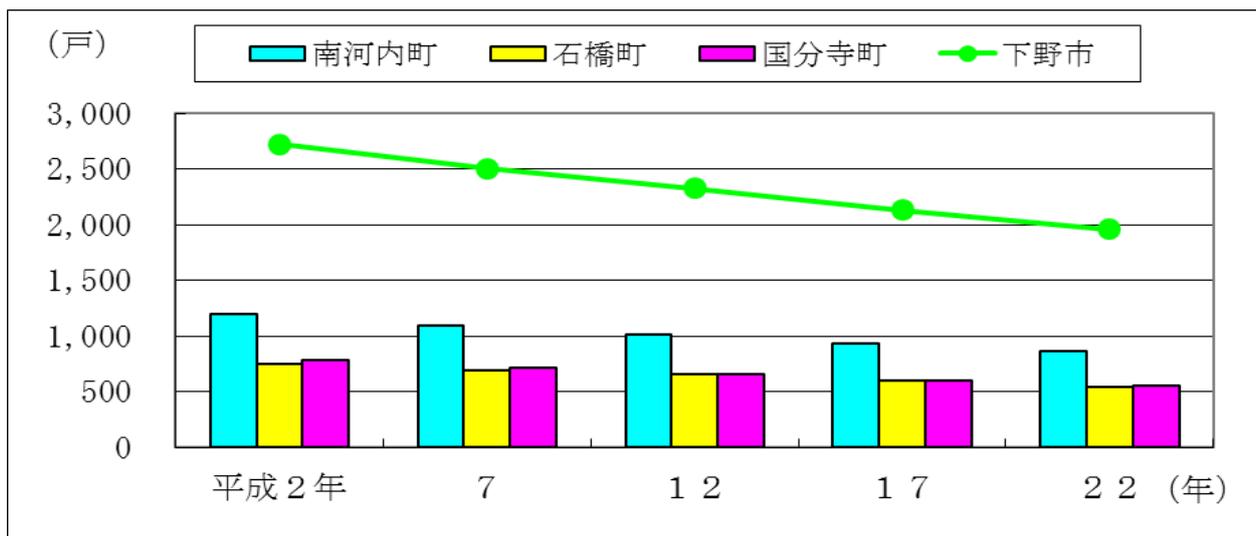
下野市の農家数の推移をみると、平成2年(2,725戸)から平成22年(1,961戸)までに764戸減少している。

旧町別にみると、平成2年から平成22年にかけて南河内町では332戸減少、石橋町では207戸減少、国分寺町では225戸減少している。

農家数の推移

単位：戸

旧町別	平成2年	7	12	17	22
南河内町	1,198	1,099	1,013	933	866
石橋町	744	690	660	604	537
国分寺町	783	719	657	596	558
下野市	2,725	2,508	2,330	2,133	1,961



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：農林業センサス（各年2月1日現在）

参考

平成22年農林業センサスの農家数

単位：戸

宇都宮市	6,128	日光市	2,644	那須塩原市	3,106
足利市	2,542	小山市	3,374	さくら市	2,082
栃木市	2,096	真岡市	4,348	那須烏山市	2,308
佐野市	3,547	大田原市	4,526		
鹿沼市	3,828	矢板市	1,318		

2月1日現在

(2) 経営耕地面積

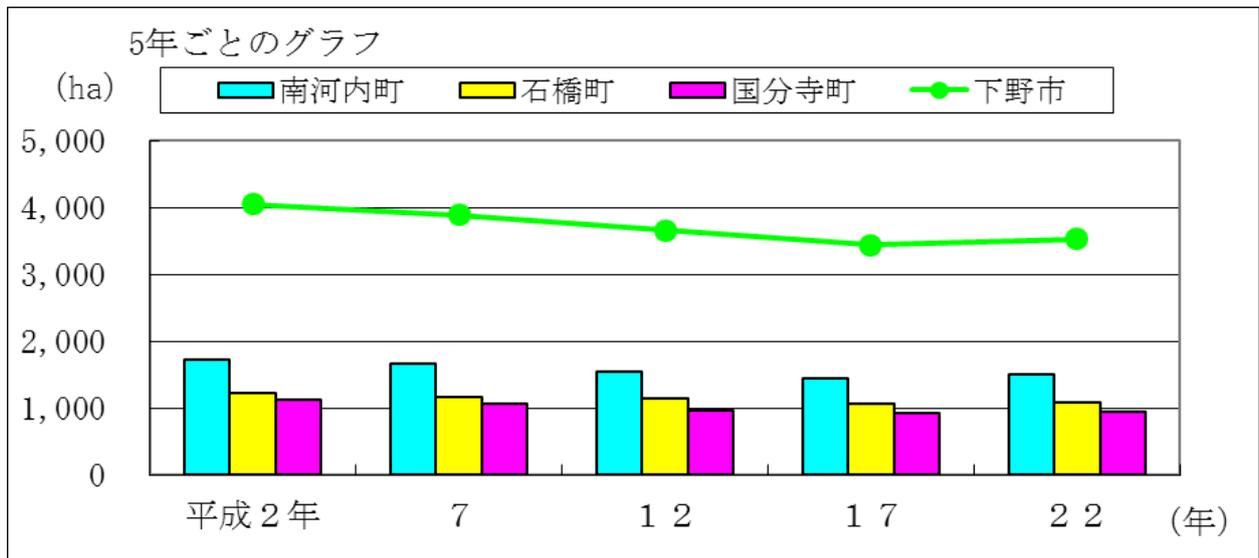
下野市の経営耕地面積（販売農家）の推移をみると、平成2年（4,050ha）から平成22年（3,523ha）までに527ha減少している。

旧町別にみると、平成2年から平成22年にかけて南河内町では221ha減少、石橋町では124ha減少、国分寺町では182ha減少している。

経営耕地面積（販売農家）の推移

単位：ha

旧町別	平成2年	7	12	17	22
南河内町	1,716	1,668	1,549	1,443	1,495
石橋町	1,213	1,166	1,136	1,061	1,089
国分寺町	1,121	1,051	966	927	939
下野市	4,050	3,885	3,651	3,431	3,523



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：農林業センサス（各年2月1日現在）

参 考

平成22年農林業センサスの経営耕地面積

単位：ha

宇都宮市	10,469	日光市	4,069	那須塩原市	8,467
足利市	1,672	小山市	4,590	さくら市	4,698
栃木市	2,219	真岡市	7,174	那須烏山市	2,750
佐野市	2,445	大田原市	10,187		
鹿沼市	4,213	矢板市	2,640		

2月1日現在

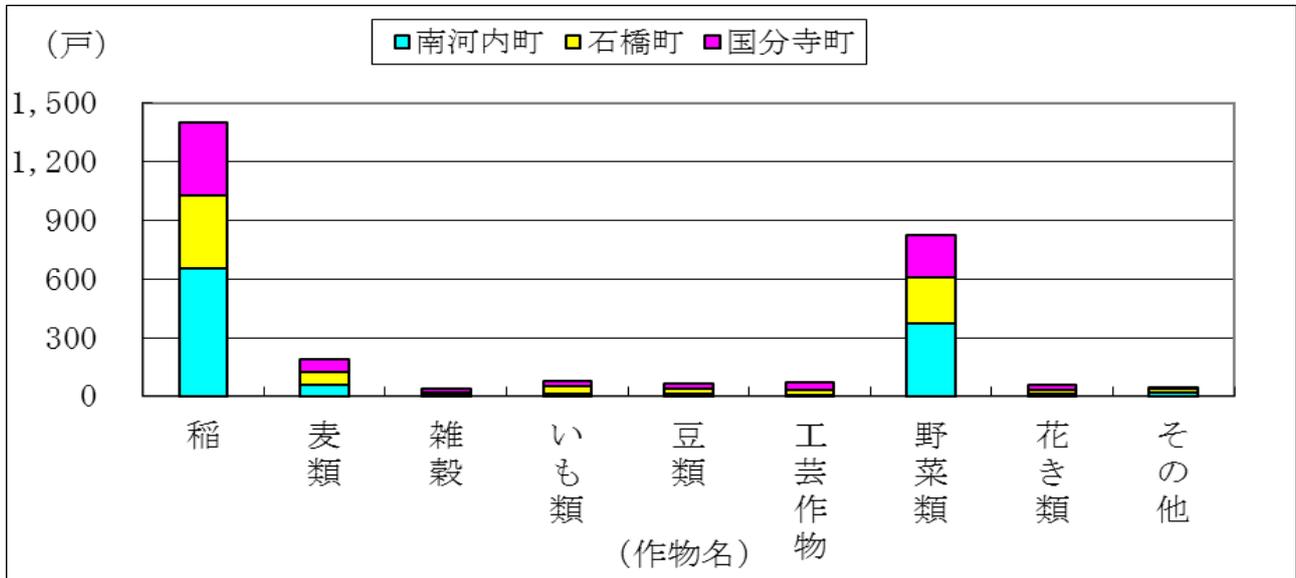
(3) 販売目的で作付けした作物

下野市の販売目的で作付け（栽培）した作物の類別経営体数をみると、稲が 1,400 で 1 番多く、2 番目に野菜類の 824、3 番目に麦類の 187、4 番目にいも類の 80 となっている。

旧町別にみると、南河内町では稲、野菜類、麦類、いも類、石橋町では稲、野菜類、麦類、いも類、国分寺町では稲、野菜類、麦類、工芸作物の順とそれぞれなっている。

販売目的で作付け（栽培）した作物の類別経営体数 単位：戸

旧町別	稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸作物	野菜類	花き類	その他
南河内町	656	58	7	15	14	8	376	12	20
石橋町	370	69	13	37	25	25	231	23	19
国分寺町	374	60	18	28	24	36	217	23	7
下野市	1,400	187	38	80	63	69	824	58	46



※ 3 町の合計を下野市として作成

資料：農林業センサス（平成 22 年）

参 考

平成 22 年農林業センサスの販売目的で作付け（栽培）した作物の類別経営体数

	稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸作物	野菜類	花き類	その他
宇都宮市	4,347	490	120	253	344	16	1,195	155	81
栃木市	1,297	245	48	37	102	2	248	10	1
小山市	1,929	399	59	48	112	23	660	59	28
上三川町	1,162	106	13	27	16	24	547	11	6
壬生町	952	154	69	85	148	23	334	28	30

2 月 1 日現在

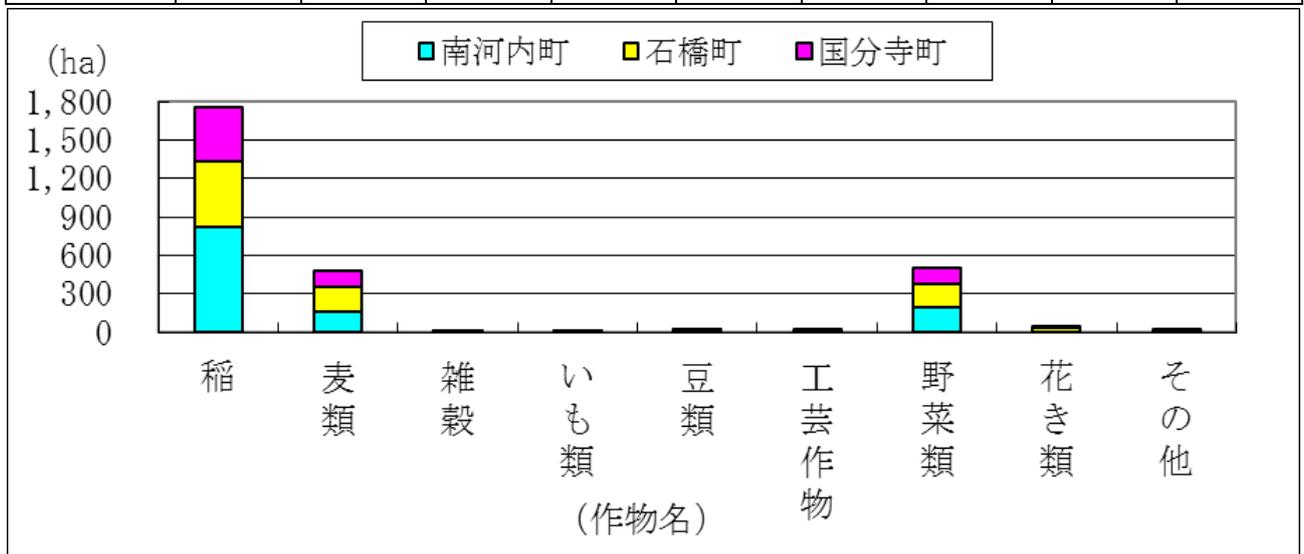
下野市の販売目的で作付け（栽培）した作物の類別作付面積は稲が 1,755ha で 1 番多く、2 番目に野菜類の 504ha、3 番目に麦類の 480ha、4 番目に花き類の 47ha となっている。

旧町別にみると、南河内町では稲、野菜類、麦類、豆類、石橋町では稲、麦類、野菜類、花き類、国分寺町では稲、麦類、野菜類、工芸作物の順にそれぞれなっている。

販売目的で作付け（栽培）した作物の類別作付け面積

単位：ha

旧町別	稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸作物	野菜類	花き類	その他
南河内町	825	159	2	1	12	3	201	5	4
石橋町	507	191	3	1	3	8	180	36	10
国分寺町	423	130	8	1	5	20	123	6	4
下野市	1,755	480	13	3	20	31	504	47	18



※ 3 町の合計を下野市として作成

資料：農林業センサス（平成 22 年）

※ 単位に満たないものについては空欄となっている。

参 考

平成 22 年農林業センサスの販売目的で作付け（栽培）した作物の作付面積

単位：ha

	稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸作物	野菜類	花き類	その他
宇都宮市	6,278	985	62	11	314	4	442	111	25
栃木市	1,300	472	9	1	80	-	76	4	-
小山市	2,222	778	115	8	180	9	518	35	18
上三川町	1,076	109	1	1	1	8	227	3	4
壬生町	1,086	238	24	4	38	8	157	12	17

2 月 1 日現在

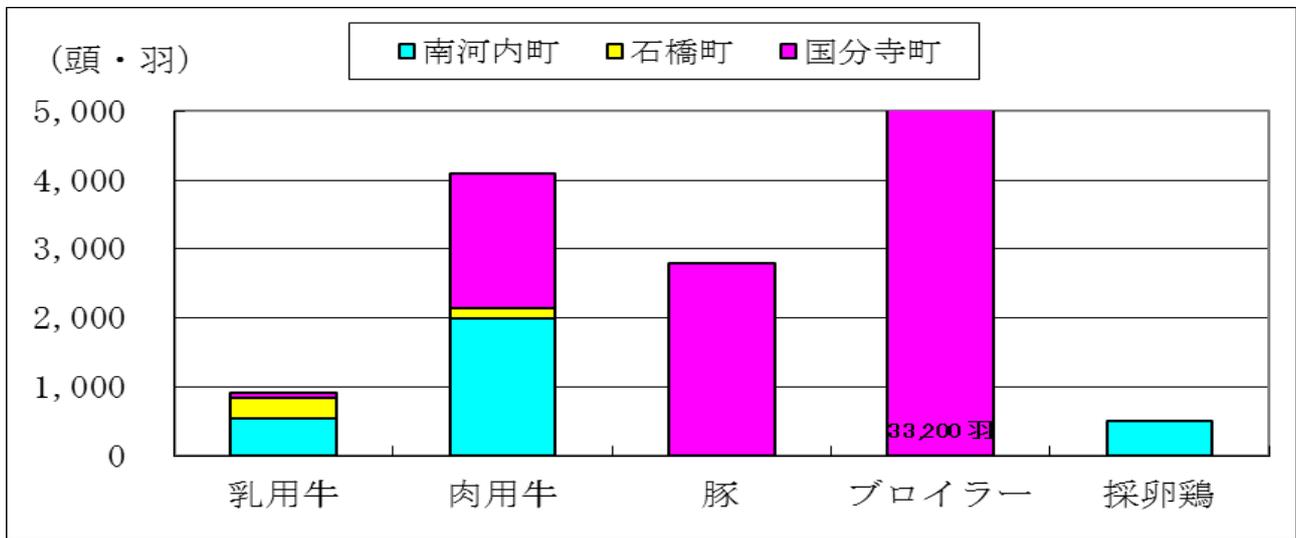
(4) 家畜飼養頭羽数

下野市の家畜飼養頭羽数は肉用牛4,087頭、乳用牛906頭、豚2,790頭、ブロイラー33,200羽、採卵鶏500羽となる。

家畜飼養頭羽数

単位：頭・羽

旧町別	乳用牛	肉用牛	豚	ブロイラー	採卵鶏
南河内町	538	1,985	0	0	500
石橋町	307	153	0	0	0
国分寺町	61	1,949	2,790	33,200	0
下野市	906	4,087	2,790	33,200	500



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：農林業センサス（平成22年）

参 考

平成22年農林業センサスの家畜飼養頭羽数

単位：頭・羽

宇都宮市	10,368	日光市	10,983	那須塩原市	24,501
足利市	2,793	小山市	8,428	さくら市	9,817
栃木市	3,646	真岡市	16,289	那須烏山市	11,614
佐野市	958	大田原市	16,005		
鹿沼市	8,640	矢板市	1,821		

2月1日現在

※牛・豚はそれぞれ1頭とし、鶏については100羽を牛・豚1頭分として算出（ブロイラー羽数は除く）

(5) 農業産出額

下野市の平成18年の農業産出額は、野菜が340千万円で1番多く、2番目に米の197千万円、畜産180千万円となっている。

平成18年農業産出額

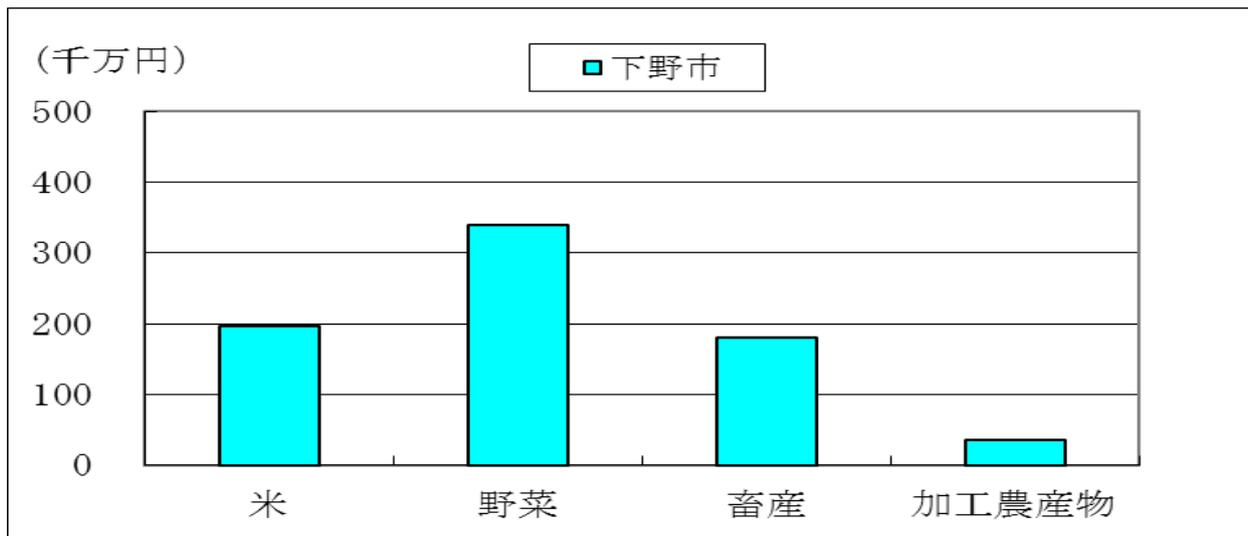
単位：千万円

農作物	米	野菜	畜産	加工農産物
下野市	197	340	180	35

【参考】平成16年農業産出額

単位：千万円

旧町別	米	野菜	畜産	加工農産物
南河内町	106	177	79	9
石橋町	58	120	36	12
国分寺町	52	87	81	16
下野市	216	384	196	37



資料：栃木農林水産統計年報

参 考

平成18年総農業産出額

単位：千万円

下野市	822	佐野市	651	真岡市	1,039	那須烏山市	1,084
宇都宮市	1,506	鹿沼市	1,255	大田原市	2,465	那須塩原市	2,639
足利市	594	日光市	1,244	矢板市	505		
栃木市	581	小山市	1,381	さくら市	1,063		

※ 米、野菜、畜産、加工農産物以外の農業産出物（果樹、麦等）を含む

5 林業

(1) 林野面積

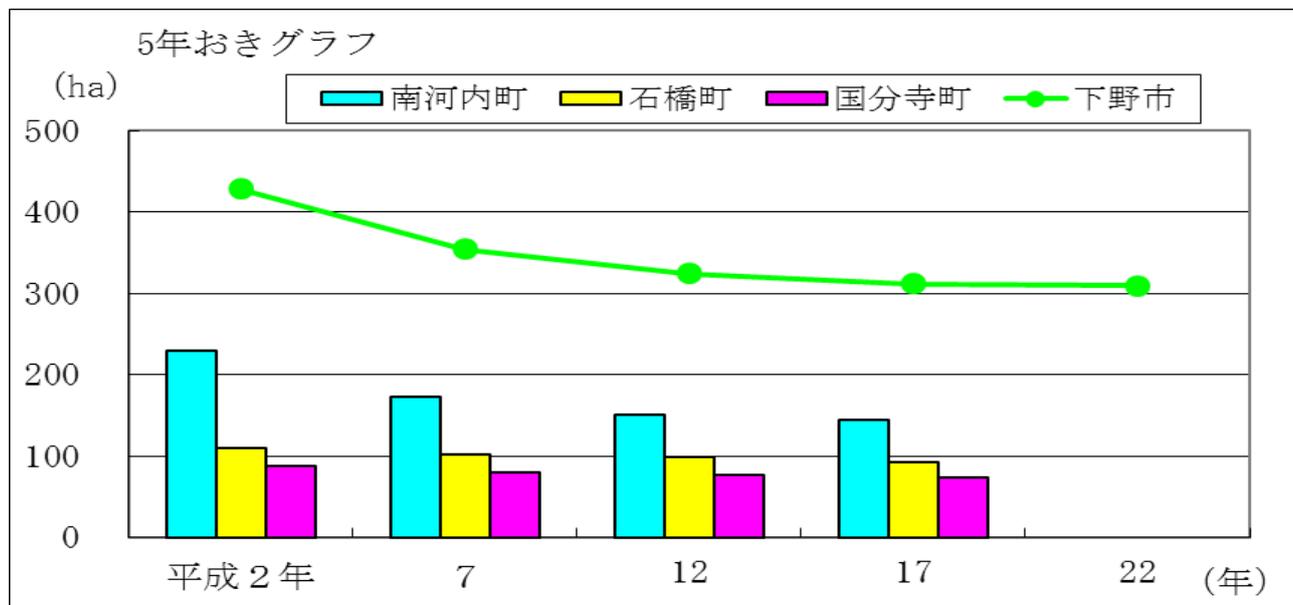
下野市の林野面積の推移をみると、平成2年（428ha）から平成22年（309ha）までに119ha減少している。

旧町別にみると、平成2年から平成17年にかけて南河内町では85ha減少、石橋町では17ha減少、国分寺町では14ha減少している。

林野面積の推移

単位：ha

旧町別	平成2年	7	12	17	22
南河内町	230	172	150	145	—
石橋町	110	102	98	93	—
国分寺町	88	80	76	74	—
下野市	428	354	324	312	309



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：栃木県林務部（各年3月31日現在）

参考

平成22年の林野面積

単位：ha

宇都宮市	8,216	日光市	125,531	那須塩原市	38,729
足利市	7,939	小山市	568	さくら市	2,539
栃木市	5,563	真岡市	1,477		
佐野市	21,839	大田原市	15,313		
鹿沼市	33,696	矢板市	9,771		

3月31日現在

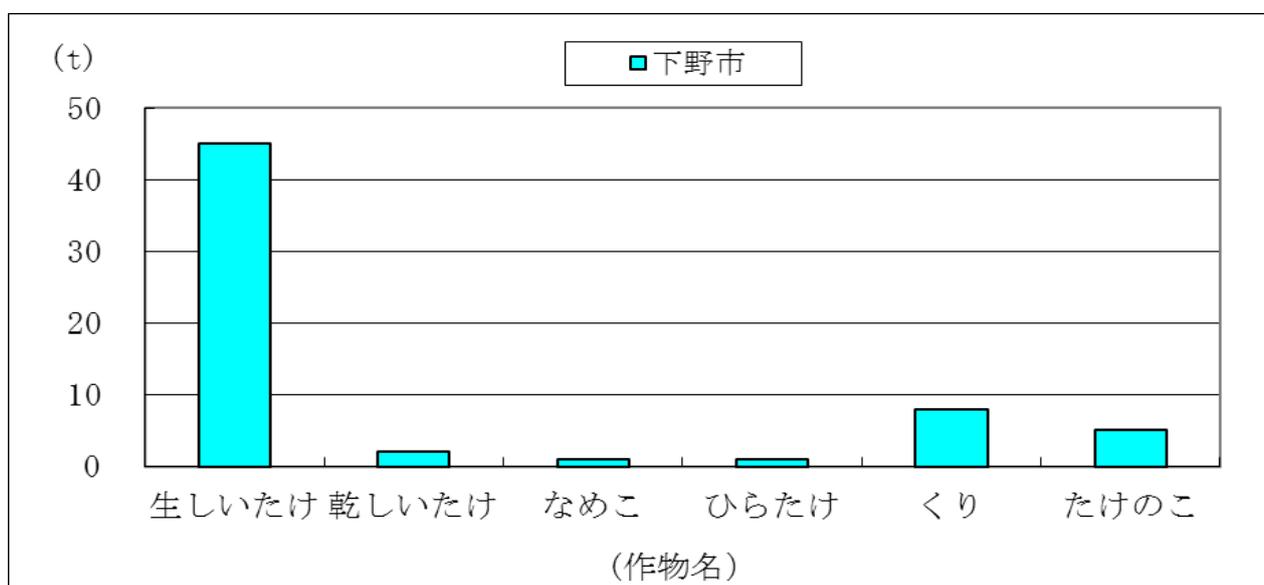
(2) 平成20年特用林産物生産量

下野市の平成20年の特用林産物生産量をみると、生しいたけが45tで1番多く、2番目にくりが8tとなる。3番目以降は、たけのこ、乾しいたけ、なめこ、ひらたけの順となっている。

平成20年特用林産物生産量

単位：t

	生しいたけ	乾しいたけ	なめこ	ひらたけ	くり	たけのこ
下野市	45	2	1	1	8	5



資料：栃木県環境森林部

解説

特用林産物とは、森林原野において産出されてきた産物で、通常林産物と称するもののうち、一般用材を除く品目の総称と定義されています。つまり、森林から生産されるもののうち、建築用材以外のものすべてを特用林産物といいます。かつては、林野副産物とか特殊林産物などとも呼ばれていましたが、現在では特用林産物に統一されています。

特用林産物は、きのこ類をはじめ、くりなどの樹実類、たらの芽、わさび等の山菜類、そのほか木炭類、竹類など多岐にわたっています。

IV 医療・社会福祉

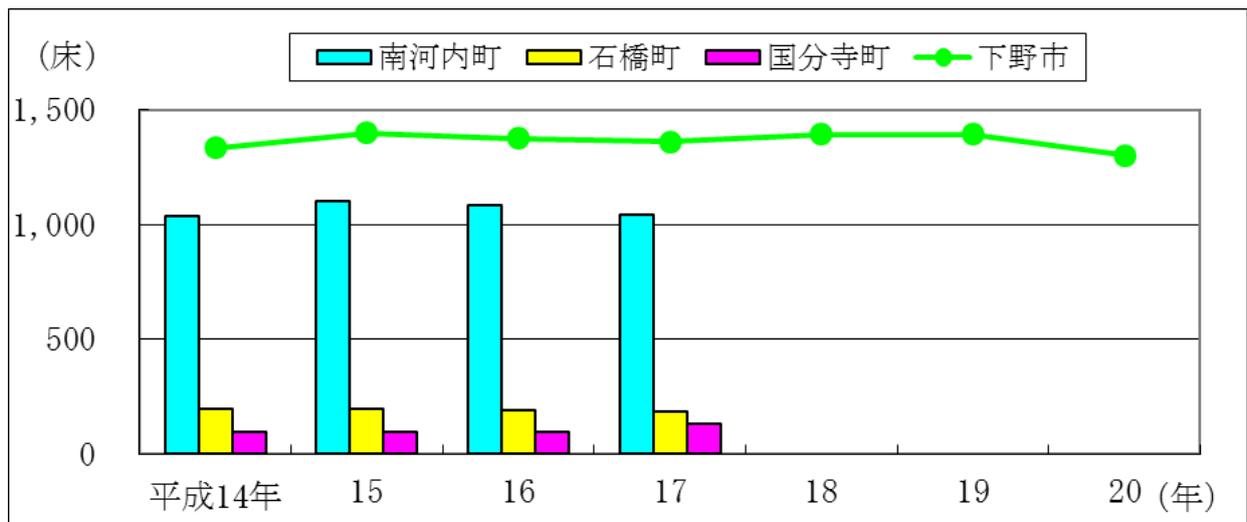
1 医療

(1) 一般病院の病床数

下野市の一般病院の病床数の推移をみると、平成14年(1,333)から平成20年(1,302)までに31減少している。

一般病院の病床数の推移

旧町別	平成14年	15	16	17	18	19	20
南河内町	1,035	1,100	1,082	1,041	—	—	—
石橋町	199	199	194	185	—	—	—
国分寺町	99	99	99	135	—	—	—
下野市	1,333	1,398	1,375	1,361	1,394	1,394	1,302



※資料：医療施設調査

- ※ 3町の合計を下野市として作成
- ※ 一般病院は自治医科大学附属病院(南河内町)石橋総合病院(石橋町)・小金井中央病院(国分寺町)の3病院となる。
- ※ 18年以降は下野市のみ

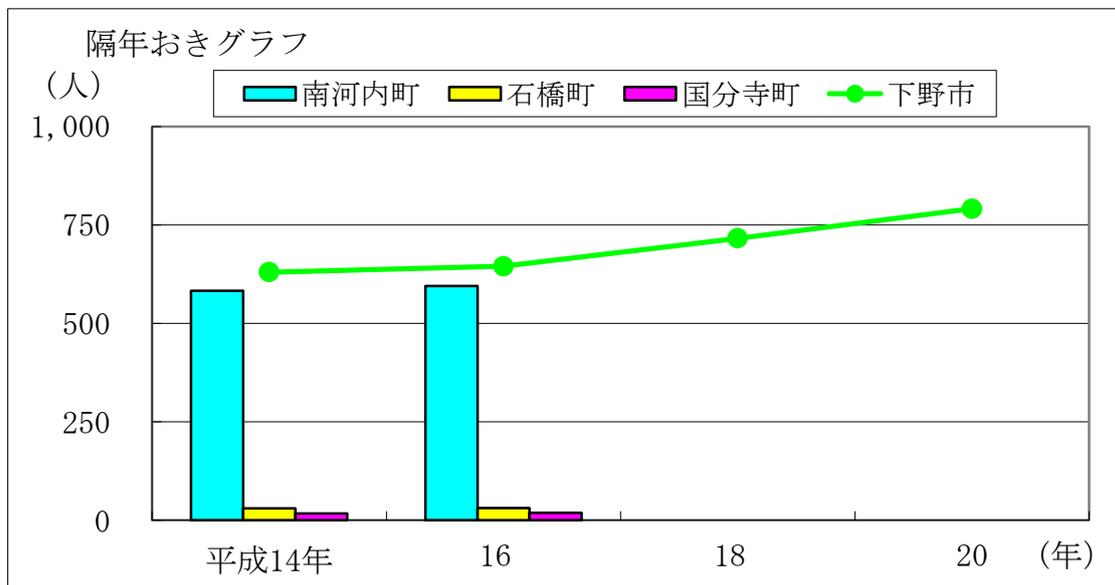
(2) 一般病院の医師数

下野市の一般病院の医師数の推移をみると、平成14年（630人）から平成20年（791人）までに161人増加している。

医療施設の従事者の推移

単位：人

旧町別	平成14年	16	18	20
南河内町	583	595	—	—
石橋町	30	31	—	—
国分寺町	17	19	—	—
下野市	630	645	716	791



資料：医師・歯科医師・薬剤師調査

- ※ 3町の合計を下野市として作成
- ※ 一般病院は自治医科大学附属病院（南河内町）・石橋総合病院（石橋町）・小金井中央病院（国分寺町）の3病院となる。
- ※ 18年以降は下野市のみ

解説

- ① 一般病院・・・下記の②～④以外で一般病床をもつ病院
- ② 精神病院・・・精神病床のみの病院
- ③ 結核病院・・・結核病床のみの病院
- ④ 感染症病院・・・感染症病床のみの病院

(3) 死因別死亡者数

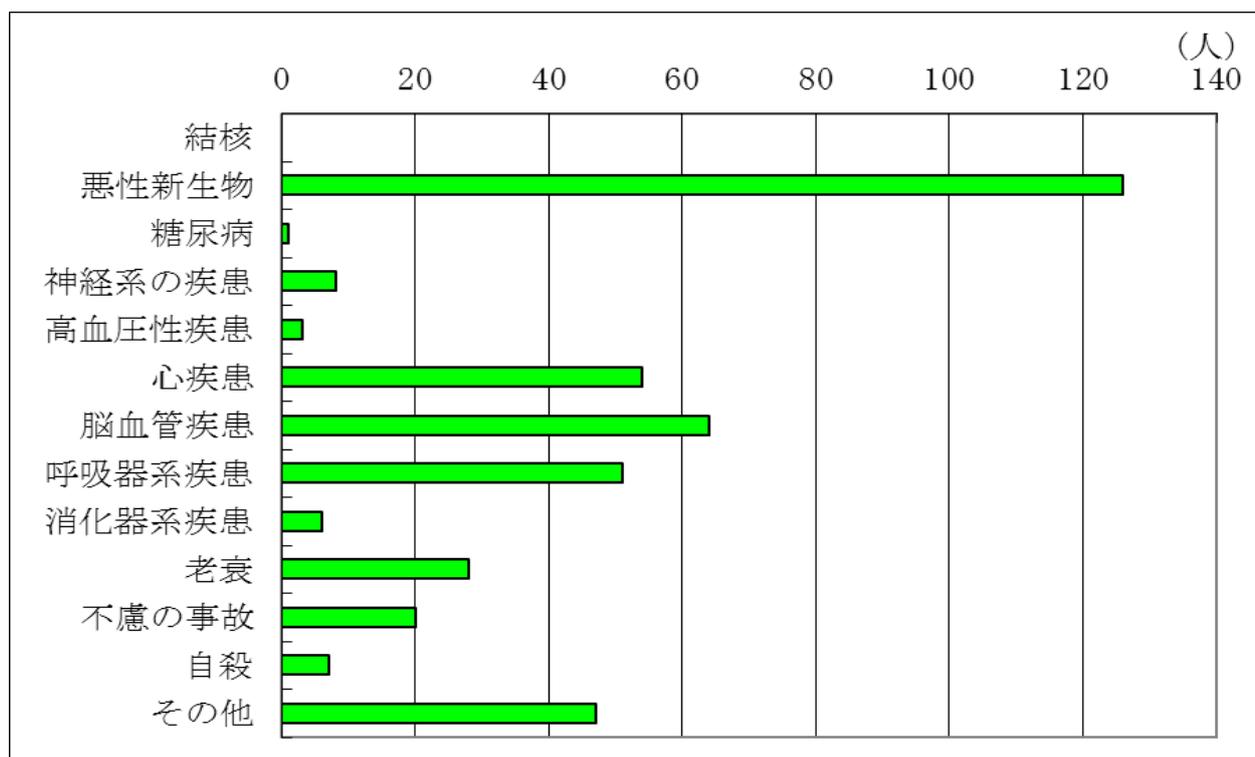
下野市の平成20年死因別死亡者数をみると、悪性新生物が126人で1番多く、2番目に脳血管疾患64人、3番目に心疾患54人となっている。

4番目以降は、呼吸器系疾患、老衰、不慮の事故、神経系の疾患、自殺、消化器系疾患、高血圧性疾患、糖尿病の順になっている。

平成20年死因別死亡者数

単位：人

死因別	結核	悪性新生物	糖尿病	神経系の疾患	高血圧性疾患	心疾患	脳血管疾患	呼吸器系疾患	消化器系疾患	老衰	不慮の事故	自殺	その他
下野市	0	126	1	8	3	54	64	51	6	28	20	7	47



※ 悪性新生物とはガンのことである。

資料：栃木県保健統計年鑑

2 国民健康保険

下野市の国民健康保険加入者の推移をみると、平成20年（33.0%）、平成21年（26.1%）、平成22年（26.0%）となっている。

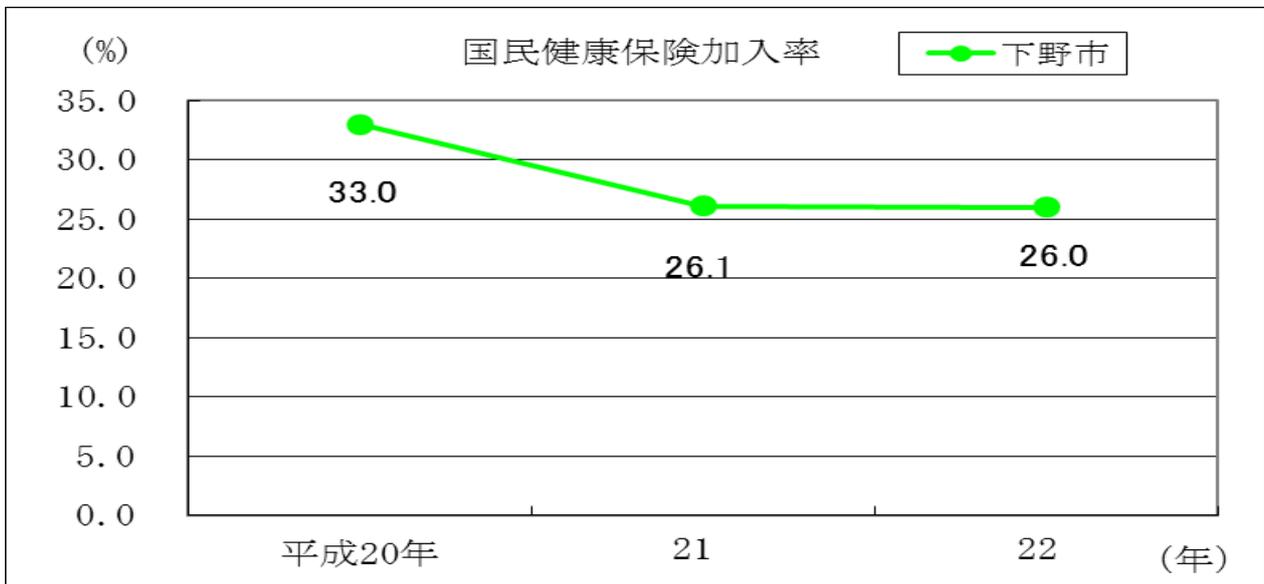
加入率が平成21年に減少しているのは、平成20年4月より、老人医療対象者が国民健康保険から後期高齢者医療制度へ移行したためである。

国民健康保険加入者の推移

単位：世帯・人・%

年次	世帯総数	加入世帯	人口総数	被保険者数	加入率
平成20年	20,662	9,221	59,580	19,663	33.0
21	20,774	7,827	59,546	15,568	26.1
22	20,957	7,868	59,518	15,470	26.0

資料：市民課



(各年3月末現在)

参 考

平成22年国民健康保険被保険者数

単位：人

宇都宮市	138,348	日光市	28,974	那須塩原市	37,741
足利市	49,323	小山市	48,519	さくら市	11,931
栃木市	43,624	真岡市	26,008	那須烏山市	10,104
佐野市	38,695	大田原市	23,543		
鹿沼市	31,282	矢板市	9,863		

平成22年3月31日現在

3 介護保険

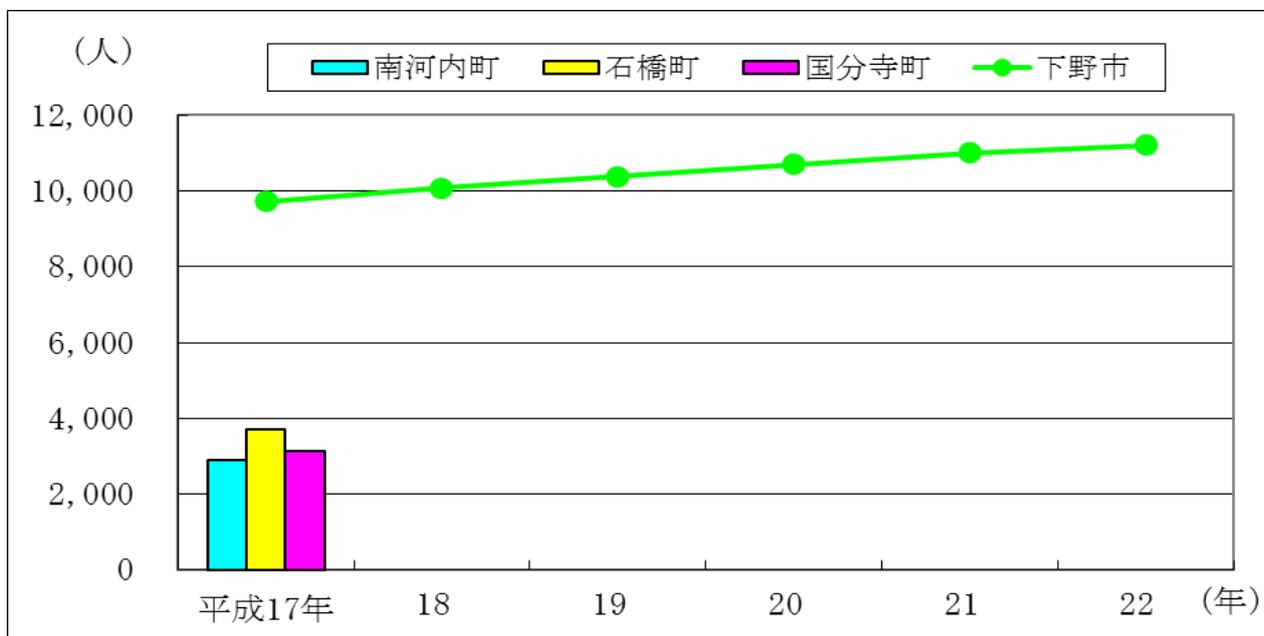
(1) 被保険者数

下野市の介護保険第1号被保険者数の推移をみると、平成17年(9,727人)から平成22年(11,216人)までに1,489人増加している。

介護保険第1号被保険者数の推移

単位：人

旧町別	平成17年	18	19	20	21	22
南河内町	2,895	—	—	—	—	—
石橋町	3,710	—	—	—	—	—
国分寺町	3,122	—	—	—	—	—
下野市	9,727	10,073	10,375	10,695	11,003	11,216



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：介護保険事業報告（各年9月末現在）

※ 18年以降は下野市のみ

解説

介護保険は、40歳以上の皆さんが保険料を負担し、介護を必要とされる方やその家族が抱えている介護の不安や負担を社会全体で支える制度です。

○第1号被保険者…市内に住んでいる65歳以上の方

○第2号被保険者…市内に住んでいる40歳から64歳までの医療保険に加入している方

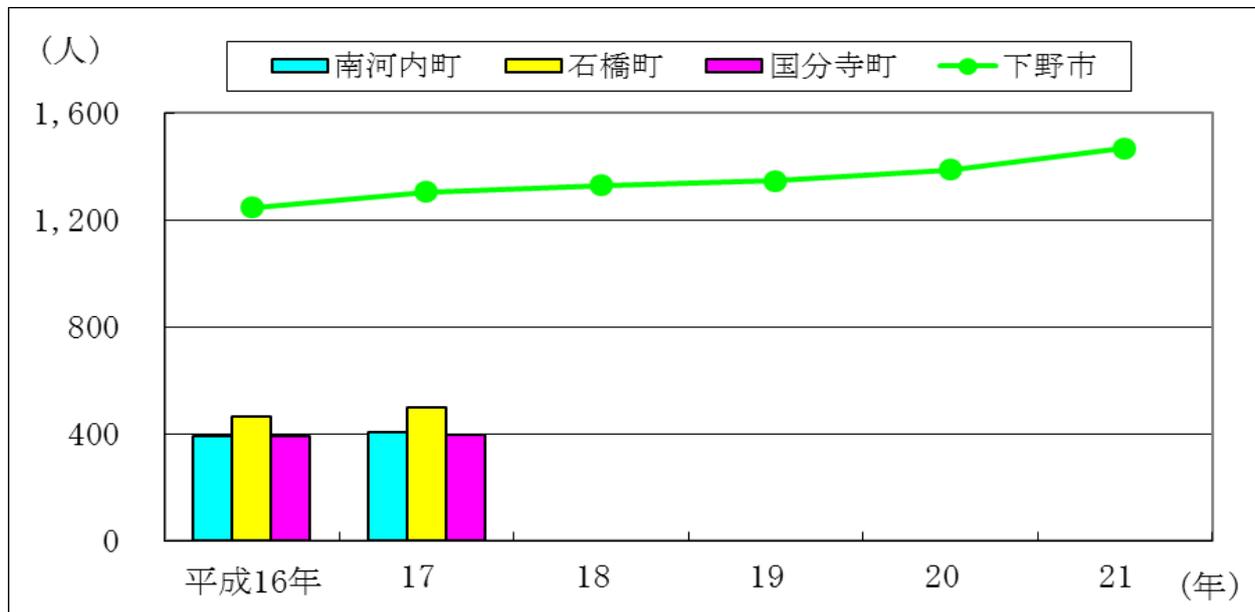
(2) 要介護者数

下野市の要介護者数の推移をみると、平成16年(1,247人)から平成21年(1,468人)までに221人増加している。

要介護者数の推移

単位：人

旧町別	平成16年	17	18	19	20	21
南河内町	390	408	—	—	—	—
石橋町	465	497	—	—	—	—
国分寺町	392	399	—	—	—	—
下野市	1,247	1,304	1,329	1,346	1,387	1,468



資料：介護保険事業状況報告（各年3月末現在）

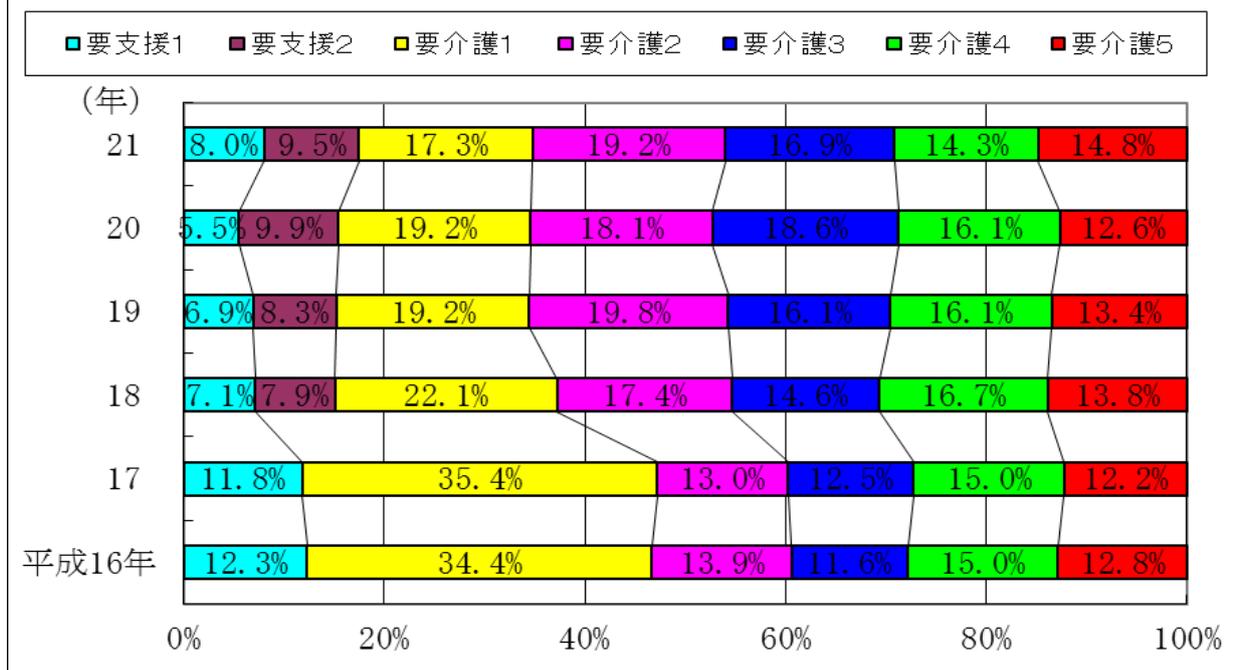
- ※ 3町の合計を下野市として作成
- ※ 18年以降は下野市のみ

要介護者数内訳

単位：人

	平成16年	17	18	19	20	21
要支援1	154	154	95	93	76	117
要支援2			106	112	137	139
要介護1	429	462	294	259	266	254
要介護2	173	170	232	267	251	282
要介護3	145	163	195	217	259	249
要介護4	187	196	223	217	224	210
要介護5	159	159	184	181	174	217

介護の程度による割合



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：介護保険事業状況報告

※ 18年以降は下野市のみ

解説

要支援

日常生活上の基本動作についてはほぼ自分で行うことが可能だが、日常生活動作の介助や現在の状態の防止により要介護状態となることの予防に資するように、手段的日常生活について何らかの支援を要する状態。

要介護1～5

日常生活上の基本的動作についても自分で行うことが困難であり、何らかの介護を要する状態。数字が大きいほど介護の必要性が高いことを示す。

※ 要支援・要介護状態については、主治医の意見書、介護認定調査の結果をもとに「介護認定審査会」において審査判定されます。

※ 平成18年4月より、要支援1・2、要介護1～5と改正

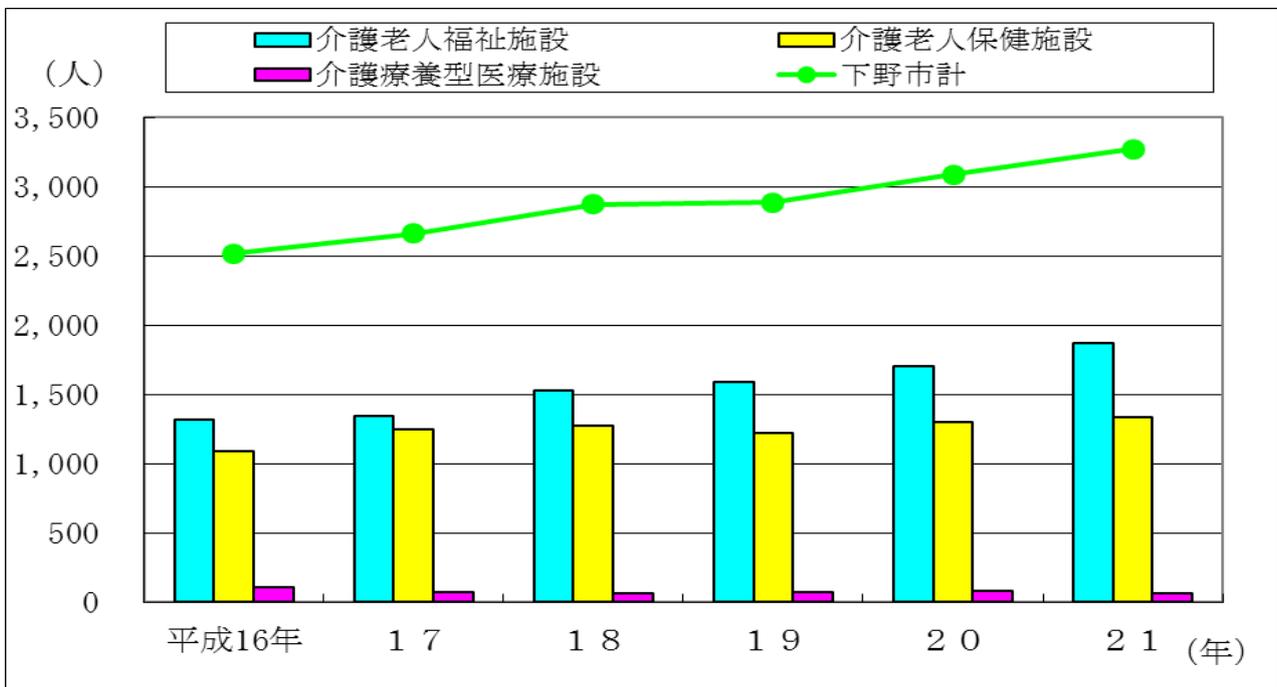
(3) サービス施設利用者数

下野市のサービス施設の利用者数の推移をみると、平成16年から平成21年までに、介護老人福祉施設が548人増加、介護老人保健施設が244人増加、介護療養型医療施設が37人減少している。

サービス施設利用者数の推移

単位：人（延べ人数）

区 分	平成16年	17	18	19	20	21
介護老人福祉施設	1,320	1,347	1,528	1,593	1,704	1,868
介護老人保健施設	1,091	1,245	1,277	1,219	1,303	1,335
介護療養型医療施設	104	71	67	72	81	67
下野市計	2,515	2,663	2,872	2,884	3,088	3,270



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：介護保険事業状況報告

解 説

介護老人福祉施設・・・常時介護が必要で居宅での生活が困難な人が入所して、日常生活上の介護が受けられます。

介護老人保健施設・・・状態が安定している人が在宅復帰できるよう、リハビリテーションを中心としたケアを行います。

介護療養型医療施設・・・急性期の治療を終え、長期の療養を必要とする人のための医療施設です。

4 生活保護

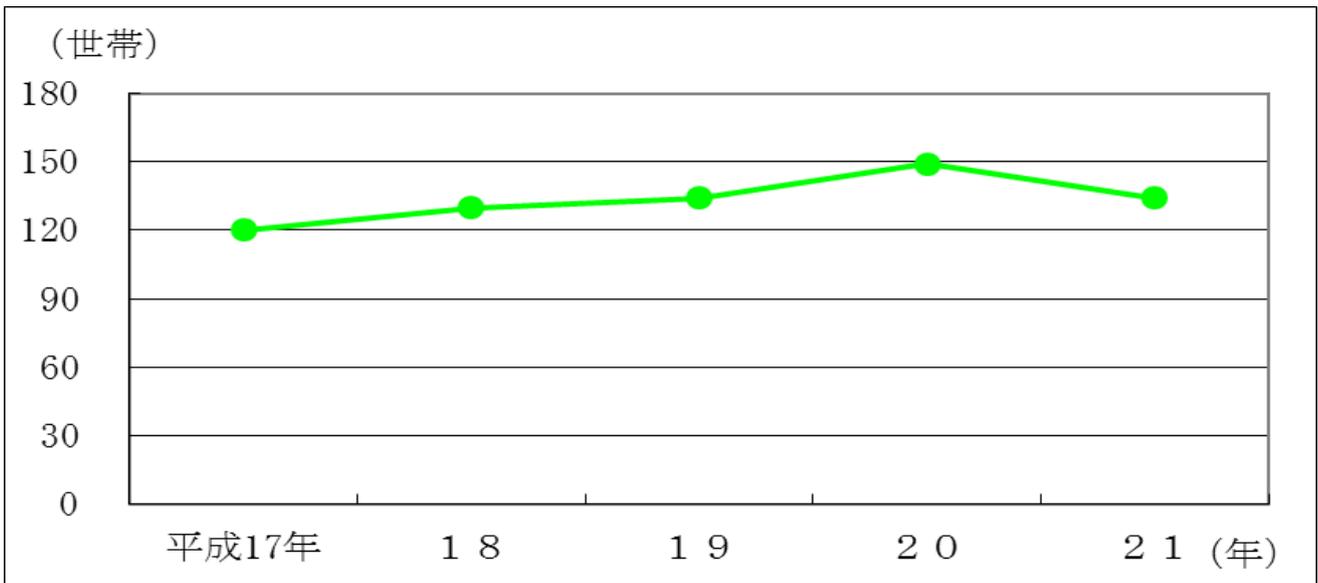
(1) 生活保護世帯数

下野市の生活保護世帯数の推移をみると、平成17年（120世帯）から平成21年（134世帯）までに14世帯増加している。

生活保護世帯数の推移

単位：世帯

	平成17年	18	19	20	21
下野市	120	130	134	149	134



※ 1年間の合計を12ヶ月で割った平均

資料：栃木県統計年鑑

参 考

生活保護世帯数

単位：世帯

宇都宮市	3,766	鹿沼市	468	大田原市	299	那須烏山市	118
足利市	675	日光市	503	矢板市	127		
栃木市	414	小山市	812	那須塩原市	447		
佐野市	773	真岡市	223	さくら市	134		

平成21年度の平均

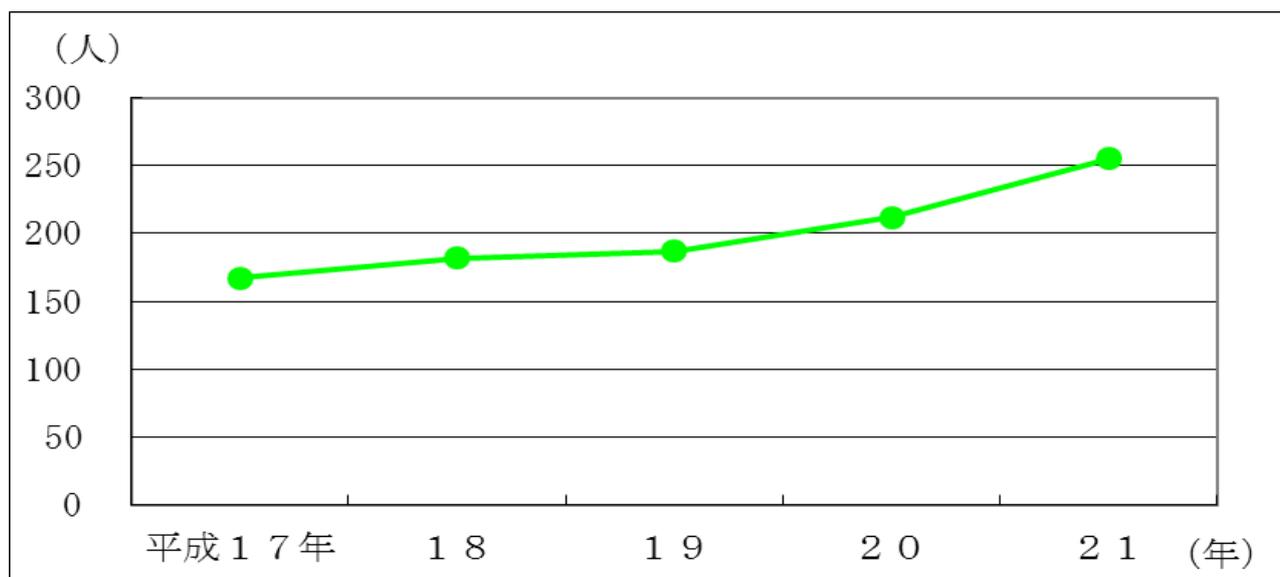
(2) 生活保護人数

下野市の生活保護人数の推移をみると、平成17年（167人）から平成21年（255人）までに88人増加している。

生活保護人数の推移

単位：人

	平成17年	18	19	20	21
下野市	167	182	187	212	255



※ 1年間の合計を12ヶ月で割った平均

資料：栃木県統計年鑑

参考

生活保護人数

単位：人

宇都宮市	6,554	鹿沼市	655	大田原市	479	那須烏山市	159
足利市	1,171	日光市	758	矢板市	208		
栃木市	729	小山市	1,055	那須塩原市	693		
佐野市	1,099	真岡市	547	さくら市	175		

平成21年度の平均

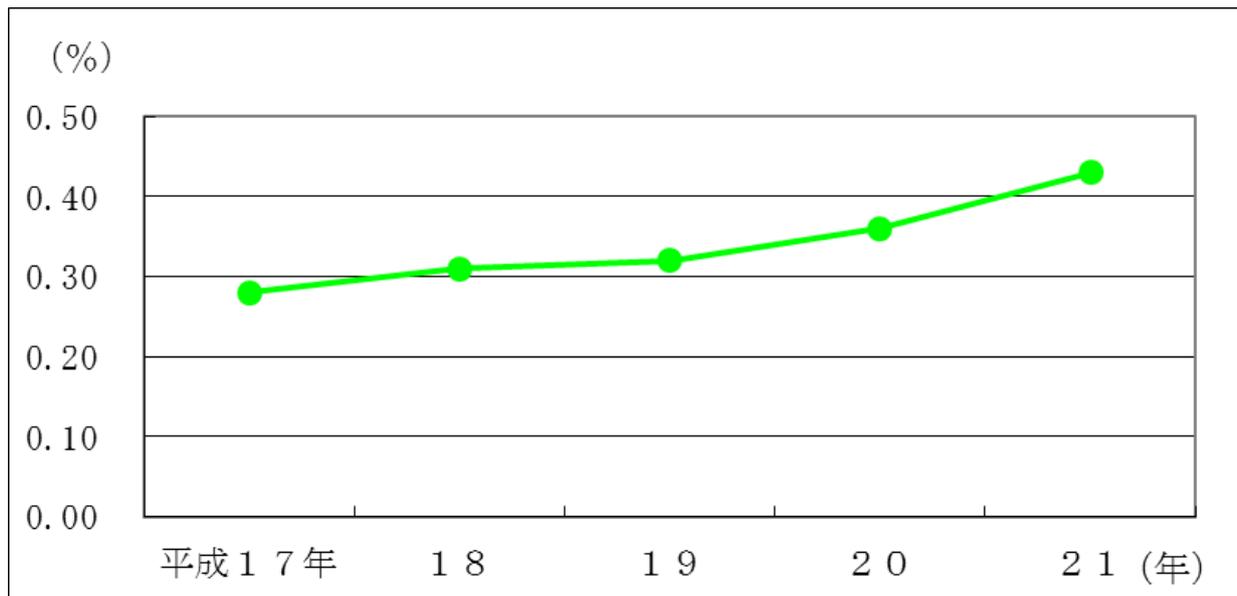
(3) 生活保護率

下野市の生活保護率（市人口に対する生活保護者の割合）の推移をみると、平成17年（0.28%）から平成21年（0.43%）までに0.15%増加している。

生活保護率の推移

単位：%

	平成17年	18	19	20	21
下野市	0.28	0.31	0.32	0.36	0.43



※ 生活保護人数を国勢調査人口で割った数字

資料：栃木県統計年鑑

参考

生活保護率

単位：%

宇都宮市	1.30	鹿沼市	0.63	大田原市	0.61	那須烏山市	0.51
足利市	0.73	日光市	0.80	矢板市	0.58		
栃木市	0.51	小山市	0.66	那須塩原市	0.60		
佐野市	0.89	真岡市	0.66	さくら市	0.42		

平成21年度の平均

V 上下水道

1 上水道

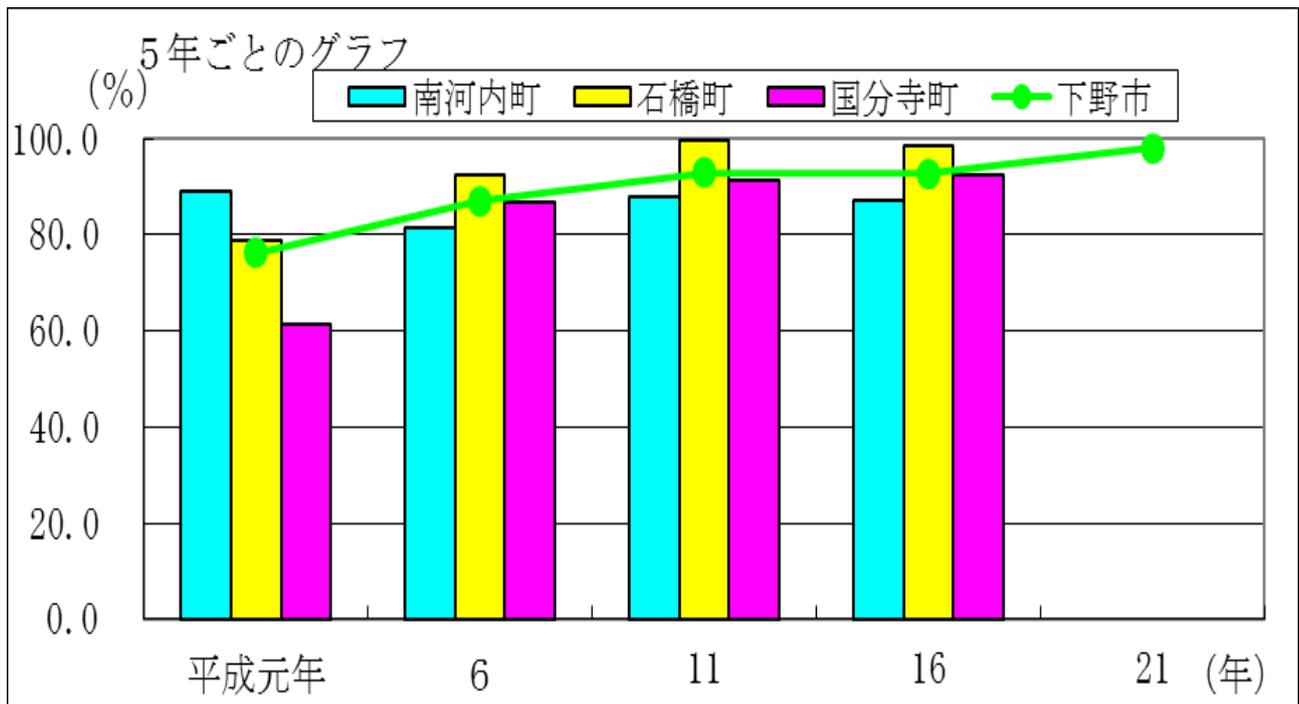
(1) 水道普及率

下野市の水道普及率の推移をみると、平成元年（76.2%）から平成21年（98.1%）までに21.9%増加している。

水道普及率の推移

単位：%

旧町別	平成元年	6	11	16	21
南河内町	89.2	81.6	87.8	87.3	—
石橋町	78.7	92.4	99.7	98.7	—
国分寺町	61.5	86.8	91.5	92.4	—
下野市	76.2	87.1	92.9	92.8	98.1



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：栃木県統計年鑑（各年3月31日現在）

※ 18年以降は下野市のみ

2 下水道

(1) 公共下水道利用者数

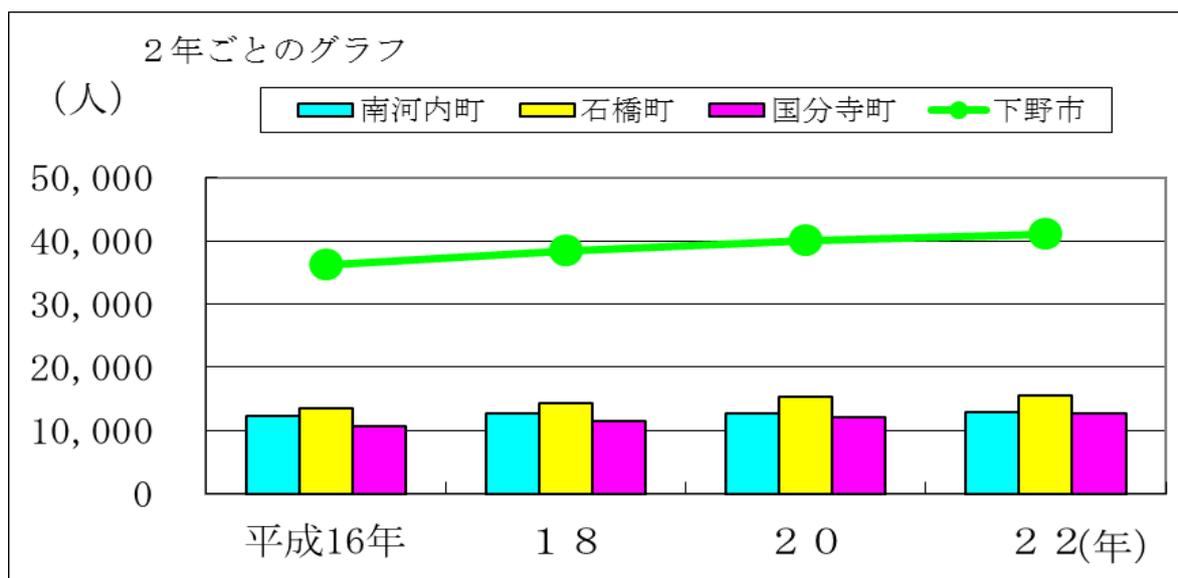
下野市の公共下水道利用者数の推移をみると、平成16年（36,170人）から平成22年（41,089人）までに4,919人増加している。

旧町別にみると、平成16年から平成22年にかけて南河内町では642人増加、石橋町では2,132人増加、国分寺町では2,145人増加している。

公共下水道利用者数の推移

単位：人

旧町別	平成16年	17	18	19	20	21	22
南河内町	12,173	12,356	12,629	12,677	12,713	12,768	12,815
石橋町	13,405	13,943	14,345	14,710	15,247	15,258	15,537
国分寺町	10,592	11,064	11,450	11,808	12,147	12,387	12,737
下野市	36,170	37,363	38,424	39,195	40,107	40,413	41,089



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：市下水道課

参 考

市内の公共下水道供用開始区域

祇園・緑・医大前・烏ヶ森・薬師寺・仁良川・上大領・東前原・石橋・下石橋・大光寺・大松山・花の木・上古山・下古山・小金井・川中子・柴・駅東

(一部地域が対象区域の地区もあります)

(2) 農業集落排水施設利用者数

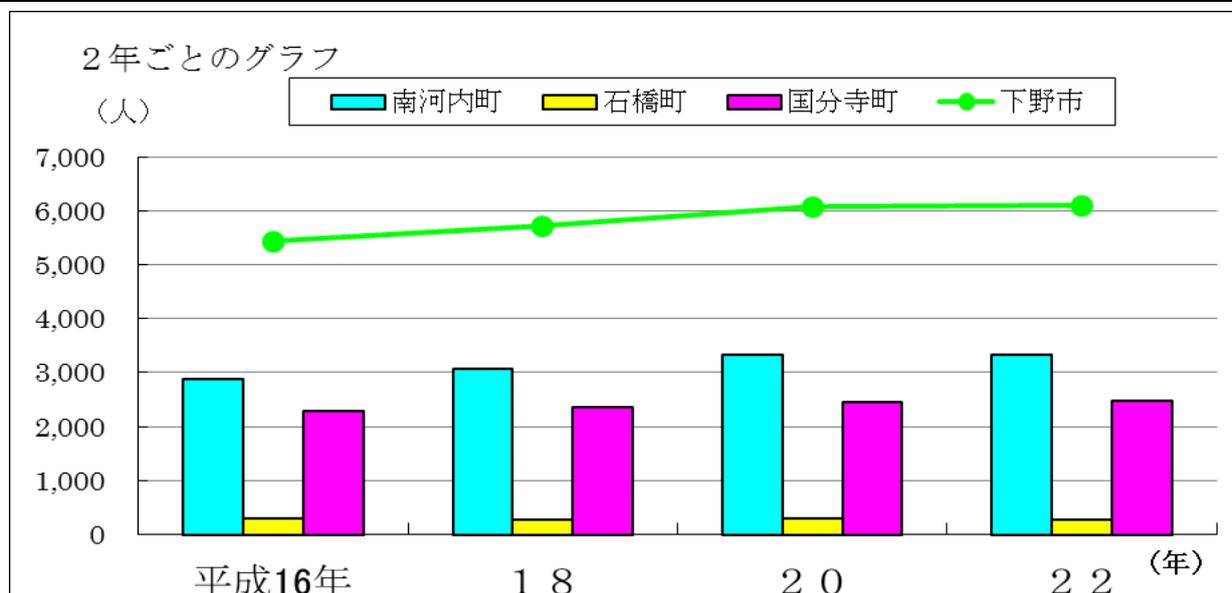
下野市の農業集落排水施設利用者数の推移をみると、平成16年(5,434人)から平成22年(6,097人)までに663人増加している。

旧町別にみると、平成16年から平成22年にかけて南河内町では461人増加、石橋町では6人減少、国分寺町では208人増加している。

農業集落排水施設利用者数の推移

単位：人

旧町別	平成16年	17	18	19	20	21	22
南河内町	2,868	2,820	3,076	3,213	3,322	3,322	3,329
石橋町	290	290	279	287	296	296	284
国分寺町	2,276	2,272	2,360	2,386	2,454	2,441	2,484
下野市	5,434	5,382	5,715	5,886	6,072	6,059	6,097



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：市下水道課

参 考

市内の農業集落排水供用開始区域

吉田東地区	本吉田・別当河原・上川島・中川島・磯部・上吉田・三王山・谷地賀
吉田西地区	谷地賀・田中・下文狭・仁良川・東根・磯部・上坪山・下坪山
成田・町田地区	成田・町田
下坪山地区	絹板・花田・下坪山
上台地区	上台
柴南地区	柴
柴南東部地区	柴
姿川西部地区	国分寺・紫・箕輪・川中子

一部地域が対象区域の地区もあります

(3) 下水道普及率

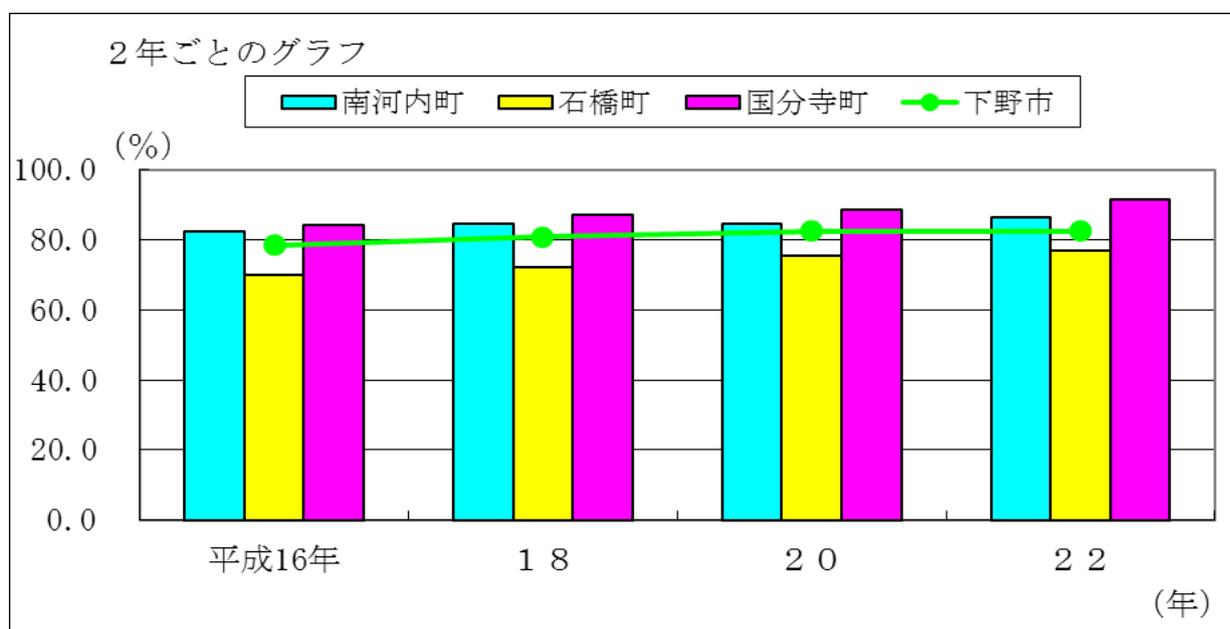
下野市の下水道普及率の推移をみると、平成16年(78.5%)から平成22年(84.7%)までに6.2%増加している。

旧町別にみると、平成16年から平成22年にかけて南河内町では4.1%増加、石橋町では7.2%増加、国分寺町では7.1%増加している。

下水道普及率の推移

単位：%

旧町別	平成16年	17	18	19	20	21	22
南河内町	82.3	83.6	84.6	84.5	84.5	86.0	86.4
石橋町	69.8	70.7	72.1	73.0	75.4	75.7	77.0
国分寺町	84.3	85.6	87.1	87.7	88.4	90.6	91.4
下野市	78.5	79.7	80.9	81.4	82.5	83.8	84.7



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：市下水道課

解説

公共下水道：主として市街地における下水を排除し、又は処理するために地方公共団体が管理する下水道で、終末処理場を有するもの又は流域下水道に接続するものであり、かつ、汚水を排除すべき排水施設の相当部分が暗渠である構造のもの（複数の市町村区域にまたがる場合は流域下水道という）

農業集落排水：農業用排水の水質保全と農村環境の改善を図り、併せて公共用水域の水質保全に寄与することを目的として、農業集落における汚水を処理するための処理施設を有するもの

VI 建設

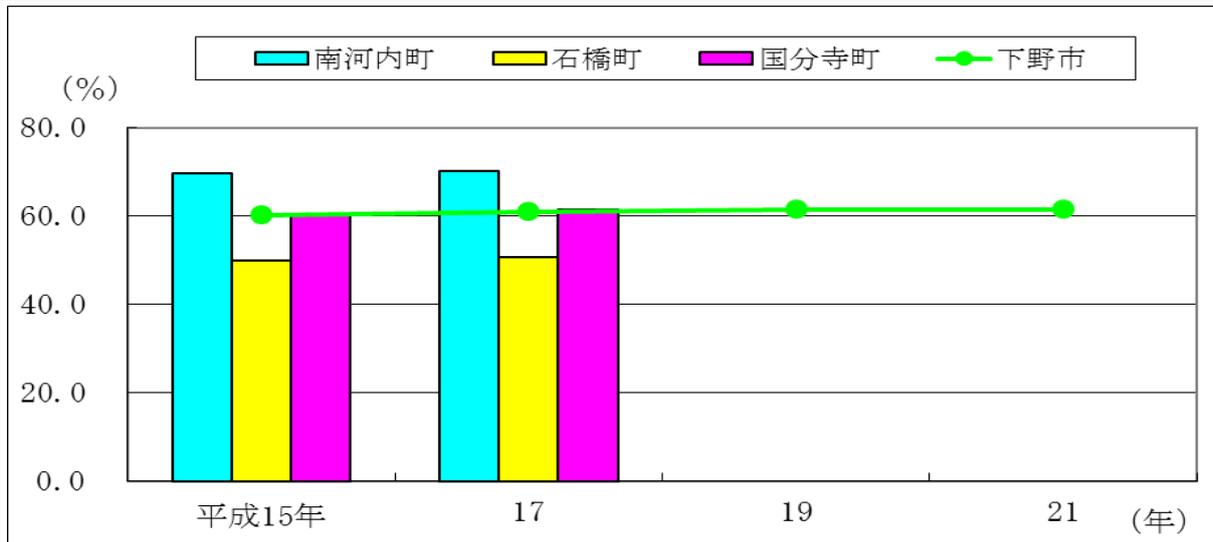
(1) 道路改良率

下野市の道路改良普及率の推移をみると、平成15年(60.3%)から平成21年(61.6%)までに1.3%増加している。

道路改良率の推移

単位：%

旧町別	平成15年	16	17	18	19	20	21
南河内町	69.7	70.1	70.1	—	—	—	—
石橋町	50.0	50.8	50.8	—	—	—	—
国分寺町	60.4	61.5	61.6	—	—	—	—
下野市	60.3	61.0	61.1	61.2	61.6	61.8	61.6



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：市建設課、県道路保全課

※ 18年以降は下野市のみ

参考

道路改良率

単位：%

宇都宮市	78.4%	日光市	51.7%	那須塩原市	62.6%
足利市	57.1%	小山市	68.0%	さくら市	83.4%
栃木市	54.0%	真岡市	81.0%	那須烏山市	76.7%
佐野市	63.0%	大田原市	72.9%		
鹿沼市	49.4%	矢板市	69.9%		

平成21年4月1日現在

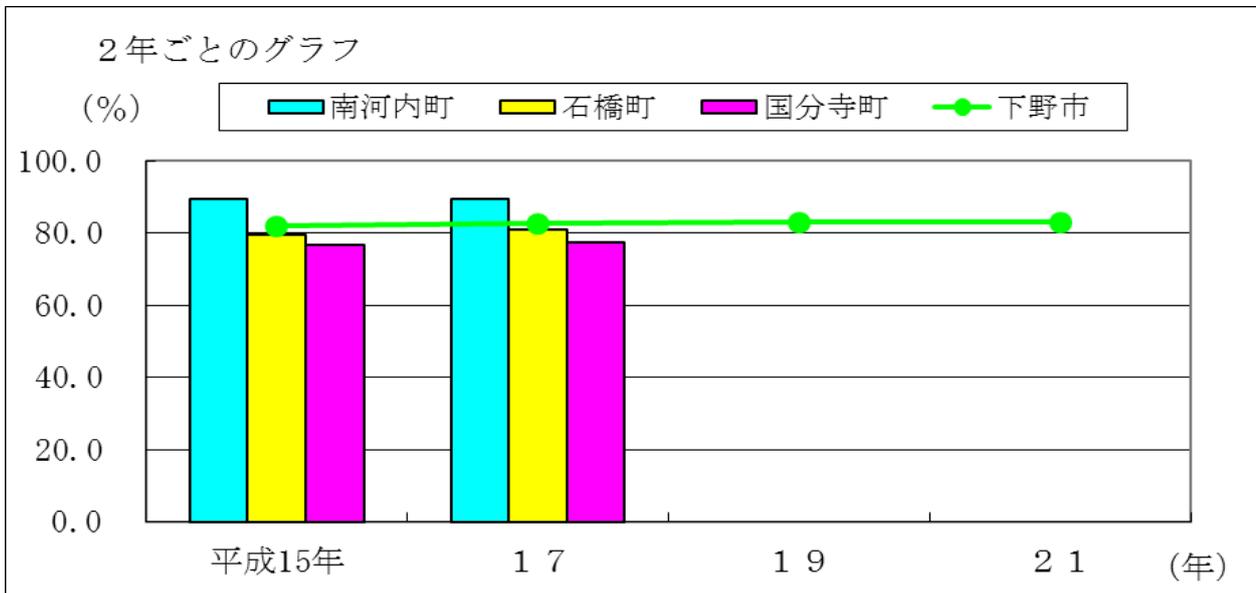
(2) 道路舗装率

下野市の道路舗装率の推移をみると、平成15年(82.0%)から平成21年(83.0%)までに1.0%増加している。

道路舗装率の推移

単位：%

旧町別	平成15年	16	17	18	19	20	21
南河内町	89.6	89.3	89.6	—	—	—	—
石橋町	79.5	79.6	81.1	—	—	—	—
国分寺町	76.7	77.3	77.4	—	—	—	—
下野市	82.0	82.1	82.7	82.9	83.1	83.2	83.0



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：市建設課、県道路保全課

※ 18年以降は下野市のみ

参考

道路舗装率

単位：%

宇都宮市	95.3%	日光市	65.5%	那須塩原市	73.0%
足利市	85.1%	小山市	90.9%	さくら市	79.4%
栃木市	65.8%	真岡市	88.2%	那須烏山市	85.7%
佐野市	76.4%	大田原市	86.2%		
鹿沼市	68.5%	矢板市	83.1%		

平成21年4月1日現在

VII 衛生・環境

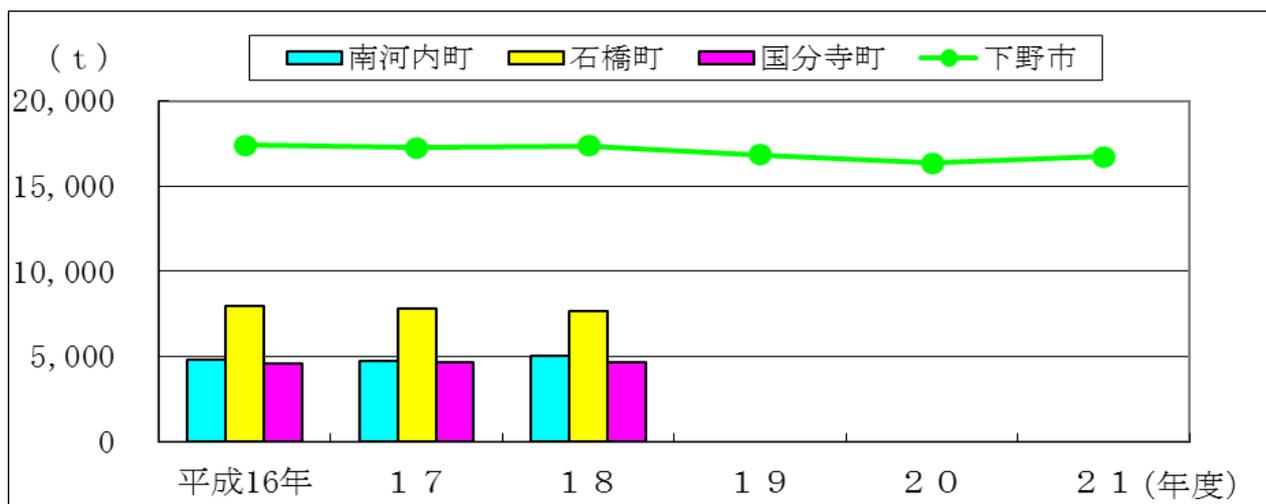
(1) ごみ総排出量

下野市のごみの総排出量の推移をみると、平成16年度（17,415 t）から平成21年度（16,730 t）までに685 t減少している。

ごみの総排出量

単位：t

旧町別	平成16年度	17	18	19	20	21
南河内町	4,849	4,746	5,014	—	—	—
石橋町	7,945	7,814	7,671	—	—	—
国分寺町	4,621	4,683	4,669	—	—	—
下野市	17,415	17,243	17,354	16,845	16,354	16,730



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：市環境課

※ ごみの総排出量は一般ごみと資源ごみの合計を換算する。

参 考

平成21年度ごみの総排出量

単位：t

宇都宮市	196,264	日光市	39,199	那須塩原市	42,770
足利市	63,907	小山市	58,030	さくら市	12,452
栃木市	48,024	真岡市	24,913	那須烏山市	8,709
佐野市	41,347	大田原市	26,412		
鹿沼市	32,954	矢板市	10,854		

市収集・直接搬入・集団回収の合計

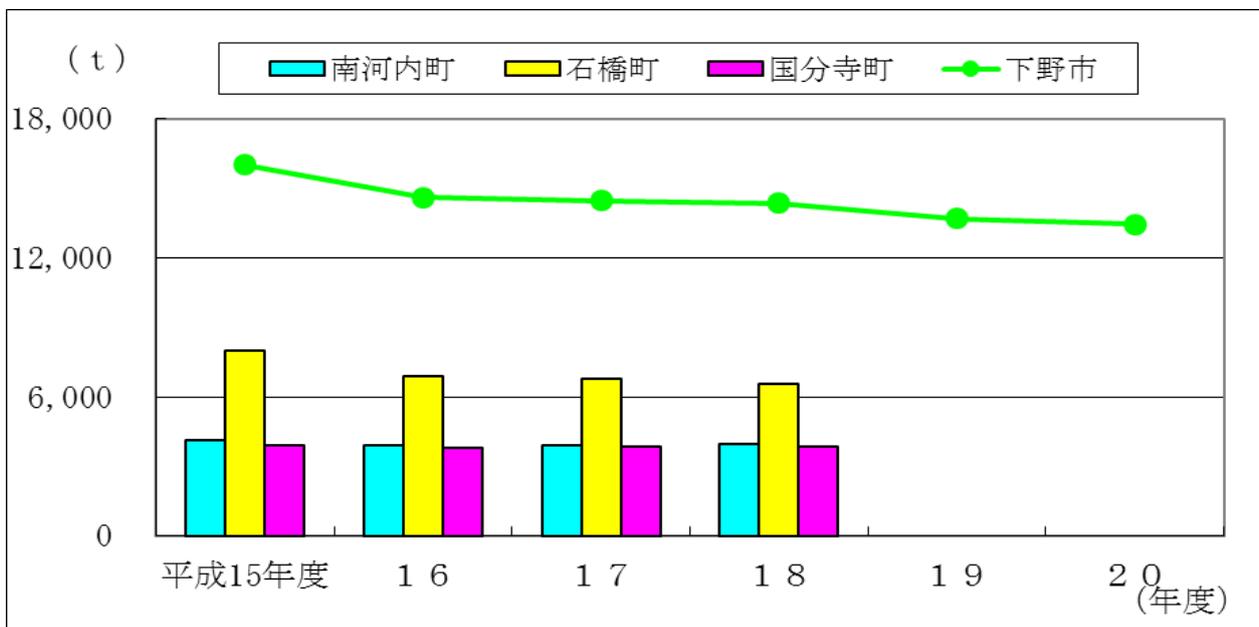
(2) 一般ごみの排出量

下野市の一般ごみの排出量の推移をみると、平成16年度(14,606 t)から平成21年度(12,502 t)までに2,104 t減少している。

一般ごみの排出量の推移

単位：t

旧町別	平成16年度	17	18	19	20	21
南河内町	3,917	3,888	3,980	—	—	—
石橋町	6,912	6,757	6,563	—	—	—
国分寺町	3,777	3,828	3,826	—	—	—
下野市	14,606	14,473	14,369	13,698	13,440	12,502



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：市環境課

参考

平成21年度一般ごみ収集量

単位：t

宇都宮市	166,566	日光市	33,764	那須塩原市	35,109
足利市	53,541	小山市	46,207	さくら市	10,278
栃木市	37,931	真岡市	20,791	那須烏山市	7,515
佐野市	34,552	大田原市	22,033		
鹿沼市	26,294	矢板市	8,682		

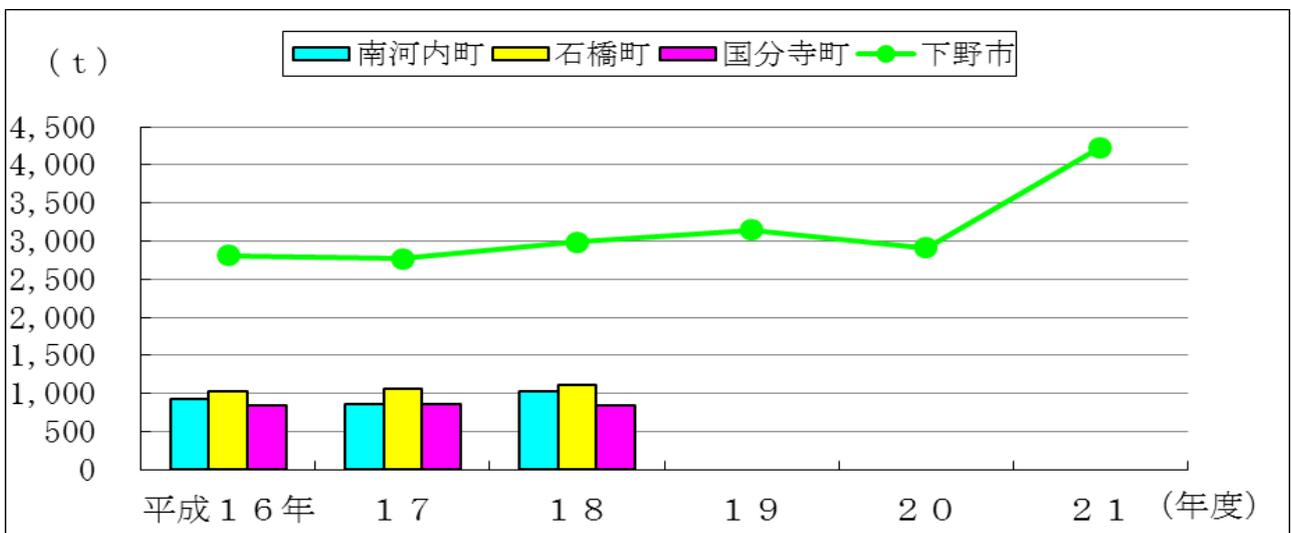
(3) 資源ごみの排出量

下野市の資源ごみの排出量の推移をみると、平成16年度(2,809 t)から平成21年度(4,228 t)までに1,419 t増加している。

資源ごみの排出量の推移

単位：t

旧町別	平成16年度	17	18	19	20	21
南河内町	932	858	1,034	—	—	—
石橋町	1,033	1,057	1,108	—	—	—
国分寺町	844	855	843	—	—	—
下野市	2,809	2,770	2,985	3,147	2,914	4,228



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：市環境課

※ 平成21年から集団回収分を含む

解説

資源ごみ

南河内地区	缶・びん・ペットボトル・新聞紙・ダンボール・牛乳パック
国分寺地区	雑誌・衣類・古布
石橋地区	缶・びん・ペットボトル・新聞紙・チラシ・ダンボール・紙パック 雑誌・雑紙・衣類・古布

平成21年度資源ごみ収集量

単位：t

宇都宮市	29,698	日光市	5,435	那須塩原市	7,661
足利市	10,366	小山市	11,823	さくら市	2,174
栃木市	10,093	真岡市	4,122	那須烏山市	1,194
佐野市	6,795	大田原市	4,379		
鹿沼市	6,660	矢板市	2,172		

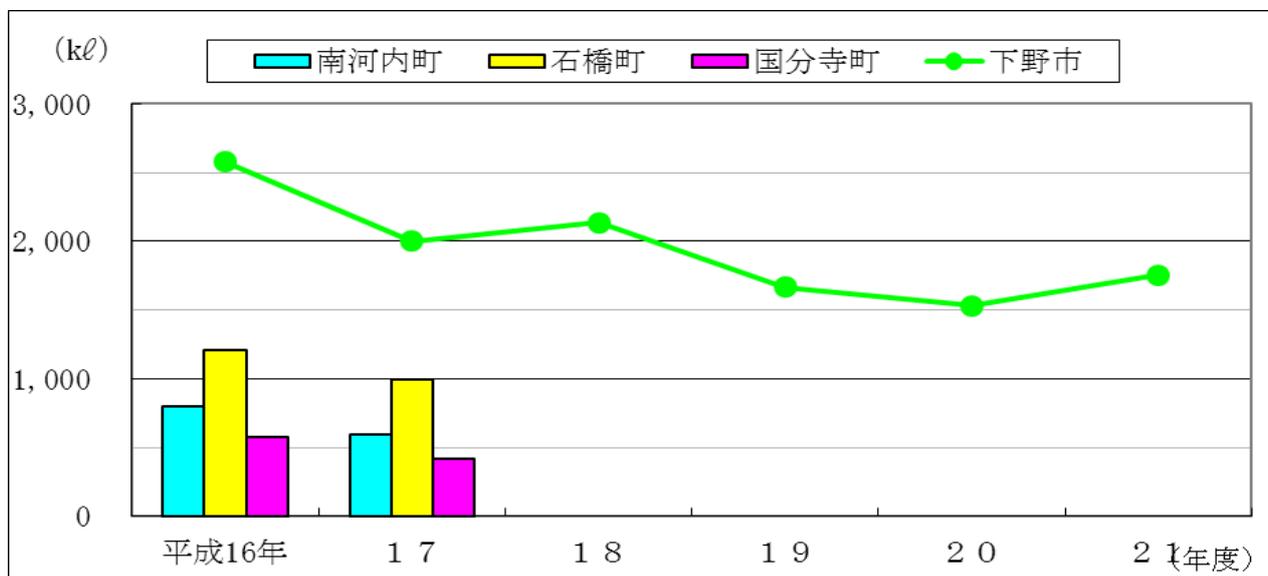
(4) し尿収集量

下野市のし尿収集量の推移をみると、平成16年度(2,580 kℓ)から平成21年度(1,753 kℓ)までに827 kℓ減少している。

し尿収集量の推移

単位：kℓ

旧町別	平成16年度	17	18	19	20	21
南河内町	796	597	—	—	—	—
石橋町	1,204	992	—	—	—	—
国分寺町	580	414	—	—	—	—
下野市	2,580	2,003	2,137	1,664	1,533	1,753



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：市環境課

※ 18年以降は下野市のみ

参考

平成21年度し尿収集量

単位：kℓ

宇都宮市	12,241	日光市	6,423	那須塩原市	9,806
足利市	8,519	小山市	7,981	さくら市	2,635
栃木市	10,632	真岡市	4,089	那須烏山市	2,092
佐野市	10,532	大田原市	5,418		
鹿沼市	6,023	矢板市	2,341		

VIII 幼稚園・保育園

(1) 幼稚園

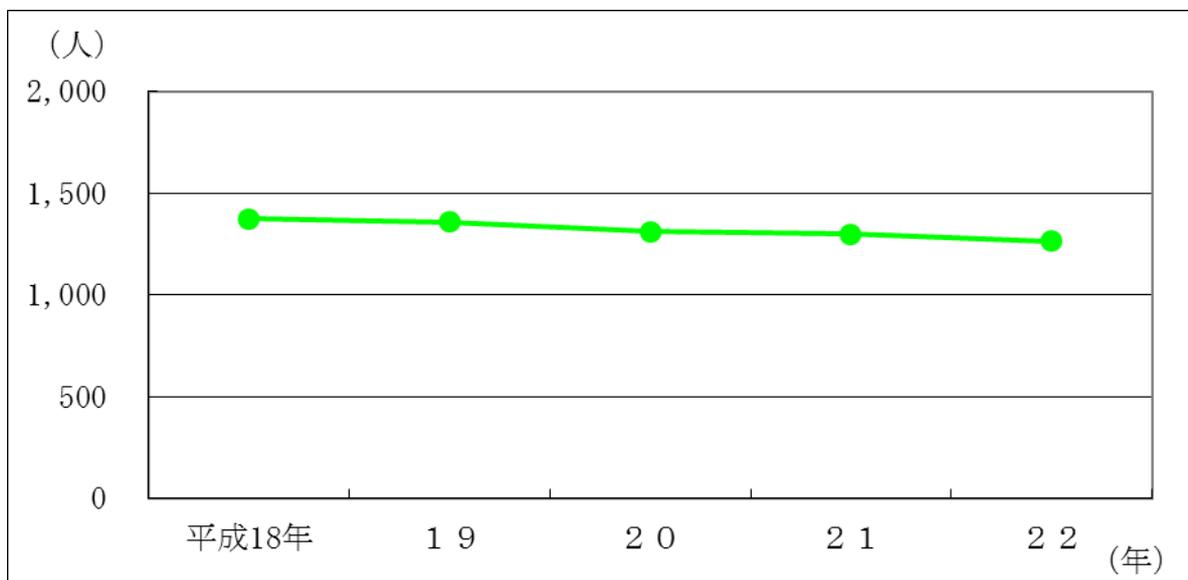
下野市の幼稚園は7園あり学級数の推移をみると、平成18年(63学級)から平成22年(61学級)までに2学級減少している。

幼稚園の園児数の推移をみると、平成18年(1,375人)から平成22年(1,266人)までに109人減少している。

幼稚園学級数・園児数の推移

単位：学級・人

年次	下野市	
	学級数	園児数
平成18年	63	1,375
19	64	1,359
20	61	1,311
21	64	1,299
22	61	1,266



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：学校基本調査(各年5月1日現在)

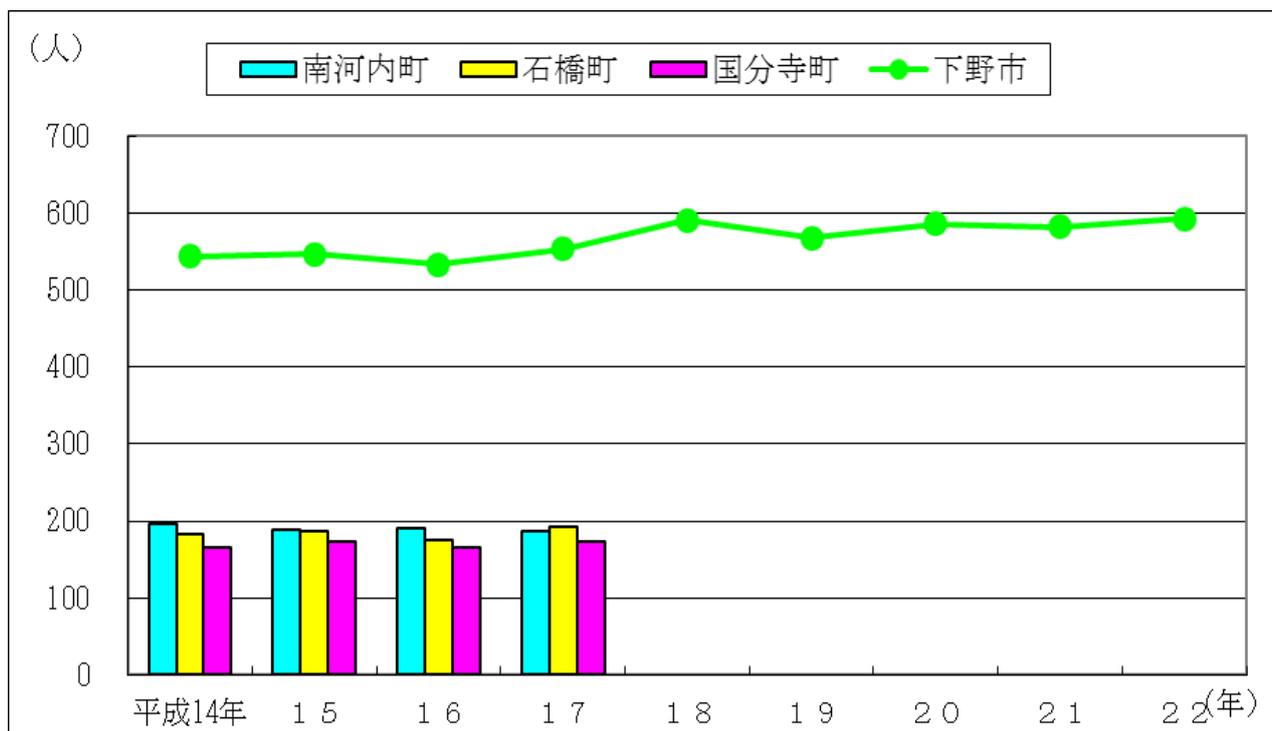
(2) 保育園

下野市の保育園の園児数の推移をみると、平成14年(544人)から平成22年(593人)までに49人増加している。

保育園数・園児数の推移

単位：園・人

年次	旧南河内町			旧石橋町			旧国分寺町			下野市		
	施設	定員	在所児	施設	定員	在所児	施設	定員	在所児	施設	定員	在所児
平成14年	3	180	196	1	200	183	2	150	165	6	530	544
15	3	180	188	1	200	186	2	170	173	6	550	547
16	3	180	191	1	200	176	2	170	166	6	550	533
17	3	180	187	1	200	193	2	190	173	6	570	553
18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	630	591
19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	630	568
20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	660	586
21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	660	582
22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	660	593



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：保育行政調査（各年4月1日現在）

※ 18年以降は下野市のみ

IX 教 育

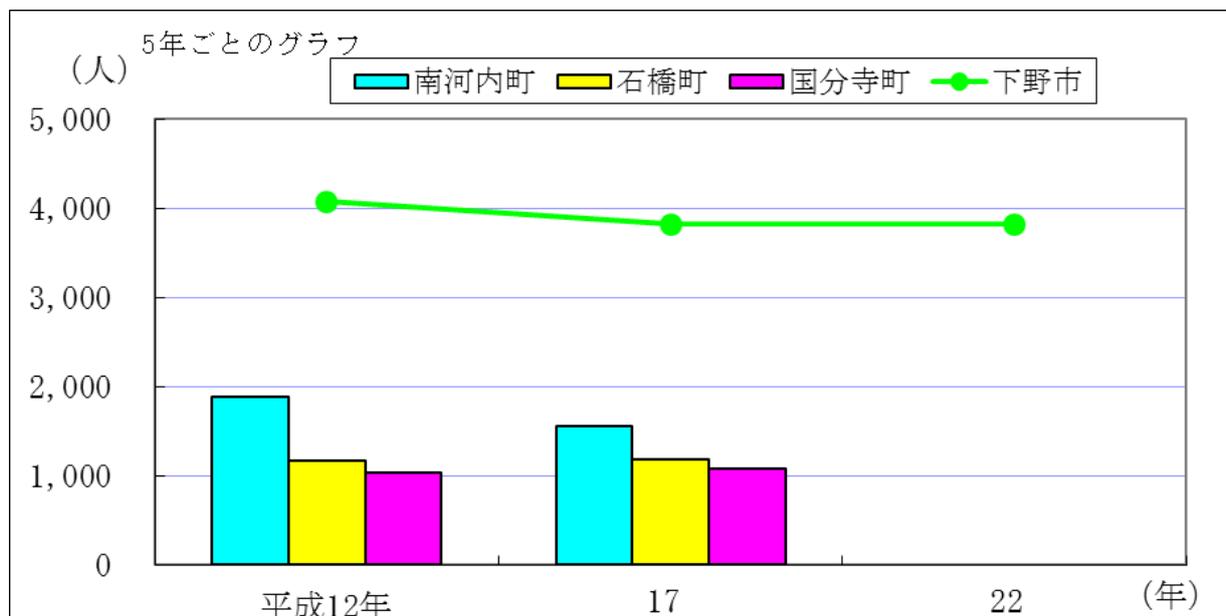
(1) 小学校

下野市内の学校数は12校であり、旧町では南河内町で5校、石橋町で4校、国分寺町で3校となっている。下野市の学級数・児童数の推移をみると、平成12年(4,076人)から平成22年(3,817人)では259人減少している。

小学校学級数・児童数の推移

単位:学級・人

年次	旧南河内町		旧石橋町		旧国分寺町		下野市	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
平成12年	63	1,880	45	1,164	38	1,032	146	4,076
16	57	1,602	44	1,151	39	1,052	140	3,805
17	56	1,561	45	1,185	41	1,076	142	3,822
18	-	-	-	-	-	-	142	3,853
19	-	-	-	-	-	-	142	3,801
20	-	-	-	-	-	-	145	3,818
21	-	-	-	-	-	-	146	3,798
22	-	-	-	-	-	-	148	3,817



※ 3町の合計を下野市として作成

資料:学校基本調査(各年5月1日現在)

※ 18年以降は下野市のみ

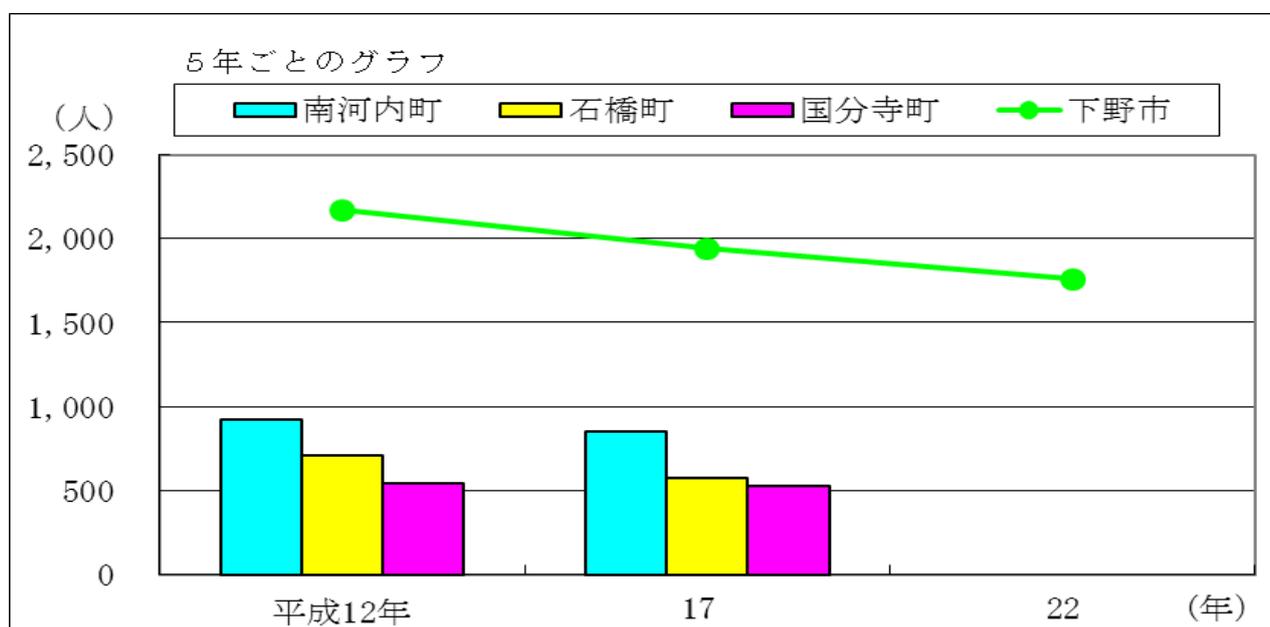
(2) 中学校

平成22年の学校数は、下野市で4校となっており、旧町では南河内町で2校、石橋町で1校、国分寺町で1校となっている。下野市の学級数・生徒数の推移をみると、平成12年(2,169人)から平成22年(1,758人)では411人減少している。

中学校学級数・生徒数の推移

単位：学級・人

年次	南河内町		石橋町		国分寺町		下野市	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
平成12年	25	921	21	707	16	541	62	2,169
16	28	892	19	563	17	530	64	1,985
17	28	847	20	572	17	523	65	1,942
18	-	-	-	-	-	-	65	1,912
19	-	-	-	-	-	-	64	1,908
20	-	-	-	-	-	-	63	1,839
21	-	-	-	-	-	-	63	1,816
22	-	-	-	-	-	-	63	1,758



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：学校基本調査（各年5月1日現在）

※ 18年以降は下野市のみ

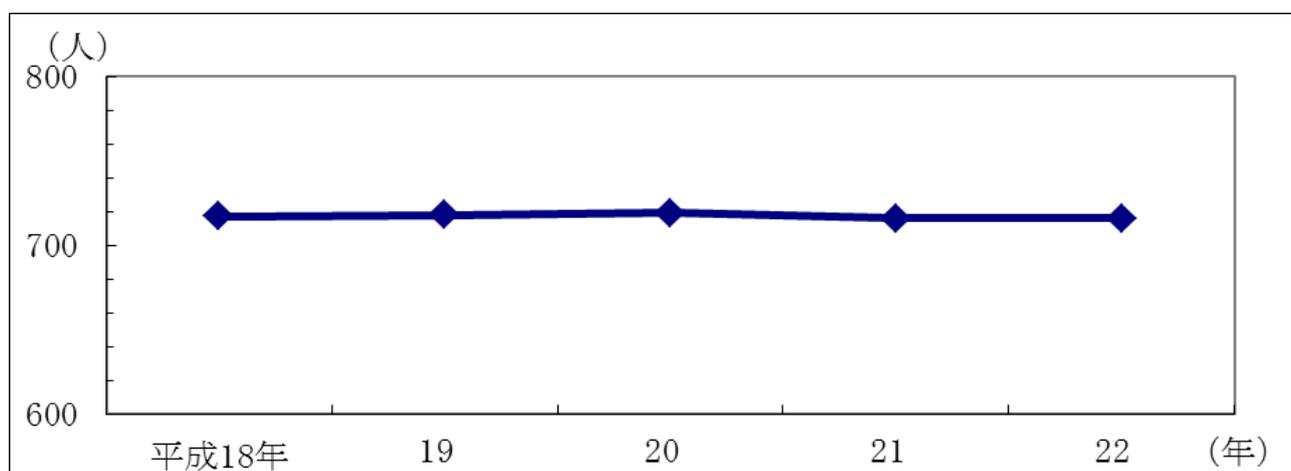
(3) 高等学校

下野市の学校数は1校であり、旧町では石橋町となる。平成18年から平成22年にかけて生徒数の推移をみると、1人減少となる。

高校学級数・生徒数の推移

単位：学級・人

年次	下野市(石橋)	
	学級数	生徒数
平成18年	18	717
19	18	718
20	18	719
21	18	716
22	18	716



資料：学校基本調査（各年5月1日現在）

参 考

平成22年度進路別卒業生数

単位：人

	中学校			高等学校		
	総数	男	女	総数	男	女
卒業生総数	648	358	290	237	122	115
高等学校等進学者	643	353	290	-	-	-
大学等進学者	-	-	-	215	108	107
専修学校進学者	-	-	-	4	1	3
公共職業能力開発施設等進学者	3	3	0	0	0	0
就職者	0	0	0	0	0	0

学校基本調査

(4) 大学・大学院

下野市の大学・大学院数は自治医科大学1校であり、旧町では南河内町となる。

医学部の学生数

単位：人

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
男	94	86	98	84	84	85	531
女	19	32	17	18	24	16	126
合計	113	118	115	102	108	101	657

看護学部の学生数

単位：人

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
男	3	4	3	2	12
女	106	98	100	112	416
合計	109	102	103	114	428

大学院の専攻別学生数

単位：人

		1年生	2年生	3年生	4年生	合計
医科学専攻	男	3	8			11
	女	4	2			6
	合計	7	10			17
環境生態学系専攻	男	0	0	0	1	1
	女	2	0	0	0	2
	合計	2	0	0	1	3
地域医療学系専攻	男	20	10	15	15	60
	女	9	6	9	3	27
	合計	29	16	24	18	87
人間生物学系専攻	男	3	2	0	1	6
	女	1	1	2	0	4
	合計	4	3	2	1	10
看護学専攻	男	1	3			4
	女	6	19			25
	合計	7	22			29

資料：自治医科大学ホームページ（平成22年5月1日現在）

X 安全安心

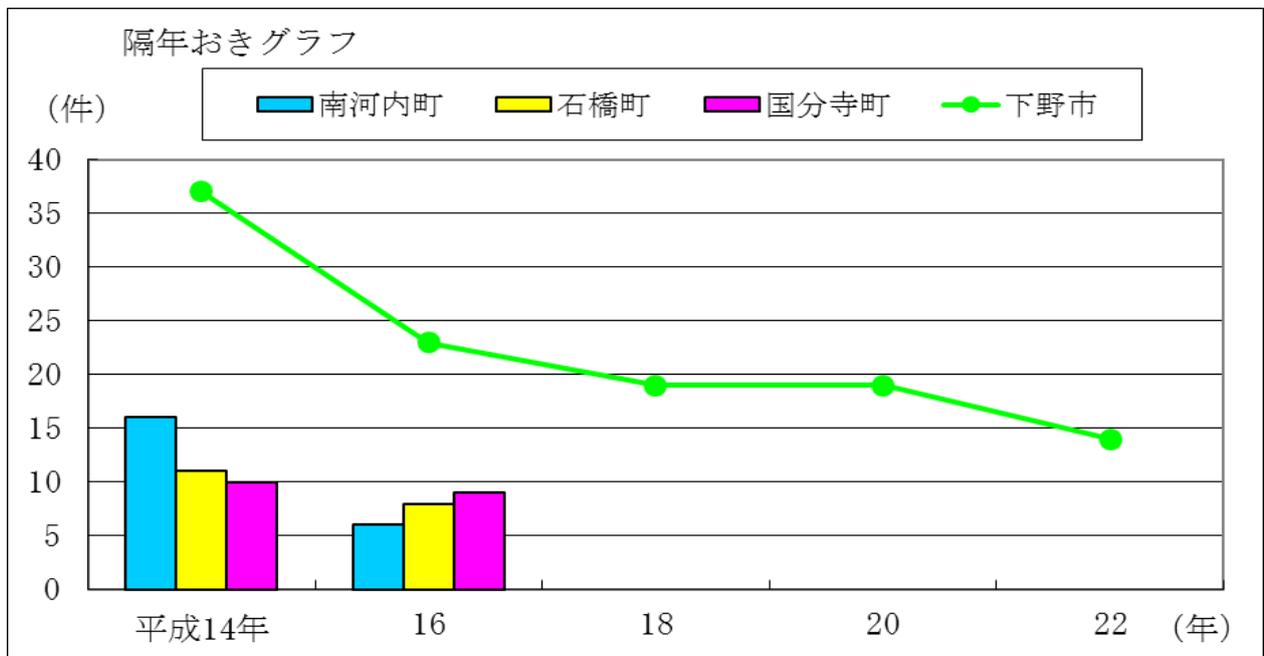
(1) 火災

下野市の火災件数の推移をみると、平成21年(20件)の火災発生状況より平成22年(14件)は6件減少している。

火災件数の推移

単位:件

年次	南河内町	石橋町	国分寺町	下野市
平成14年	16	11	10	37
15	20	6	9	35
16	6	8	9	23
17	7	11	6	24
18	—	—	—	19
19	—	—	—	28
20	—	—	—	19
21	—	—	—	20
22	—	—	—	14



資料:消防防災年報

※ 3町の合計を下野市として作成

※ 18年以降は下野市のみ

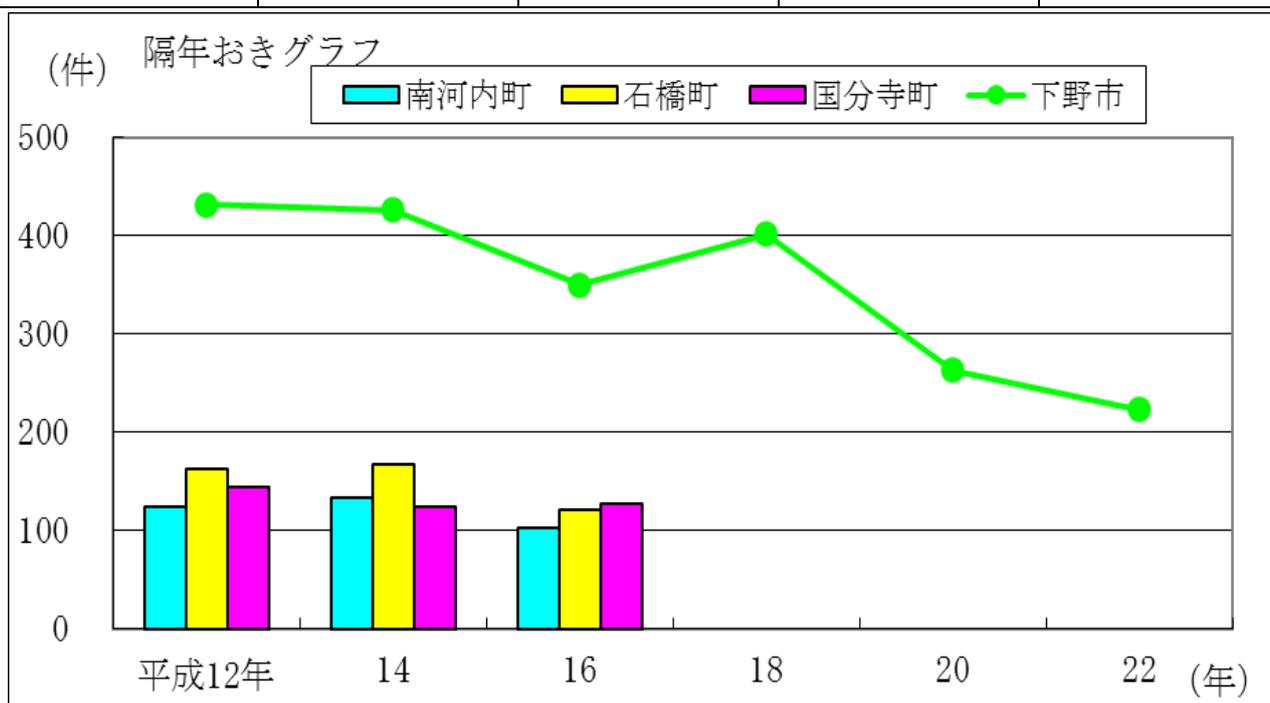
(2) 交通事故件数

下野市の交通事故件数をみると、平成21年（243件）の事故発生状況より平成22年（223件）は20件減少している。

交通事故件数の推移

単位:件

年次	南河内町	石橋町	国分寺町	下野市
12	125	163	144	432
14	134	168	124	426
15	109	170	119	398
16	102	121	127	350
17	118	132	139	389
18	-	-	-	402
19	-	-	-	303
20	-	-	-	263
21	-	-	-	243
22	-	-	-	223



※3町の合計を下野市として作成

資料:交通年鑑

※18年以降は下野市のみ

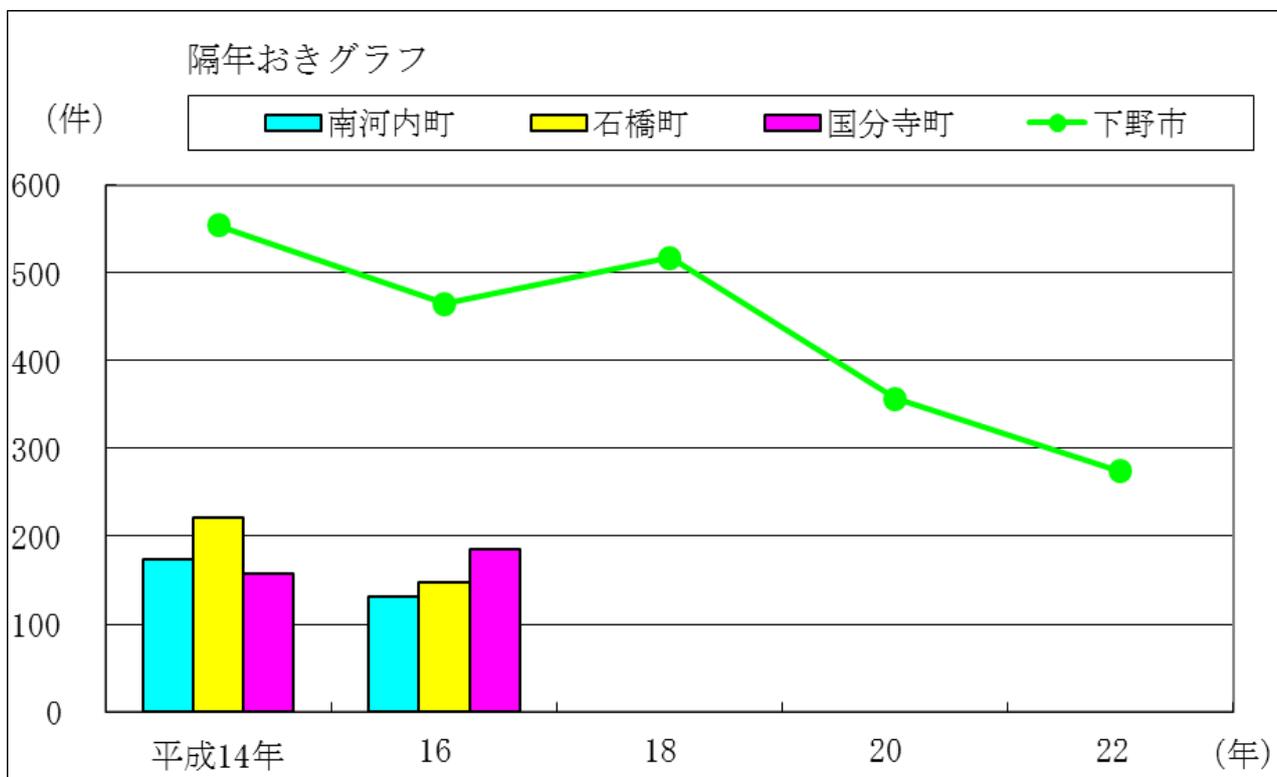
3) 交通事故死傷者数

下野市の交通事故死傷者数をみると、平成21年（302件）より平成22年（274件）では28件減少している。

交通事故死傷者数の推移

単位：件

年次	南河内町	石橋町	国分寺町	下野市
平成14年	174	222	158	554
15	159	230	156	545
16	131	148	186	465
17	155	160	191	506
18	—	—	—	517
19	—	—	—	383
20	—	—	—	357
21	—	—	—	302
22	—	—	—	274



※ 3町の合計を下野市として作成

資料：交通年鑑

※ 18年以降は下野市のみ

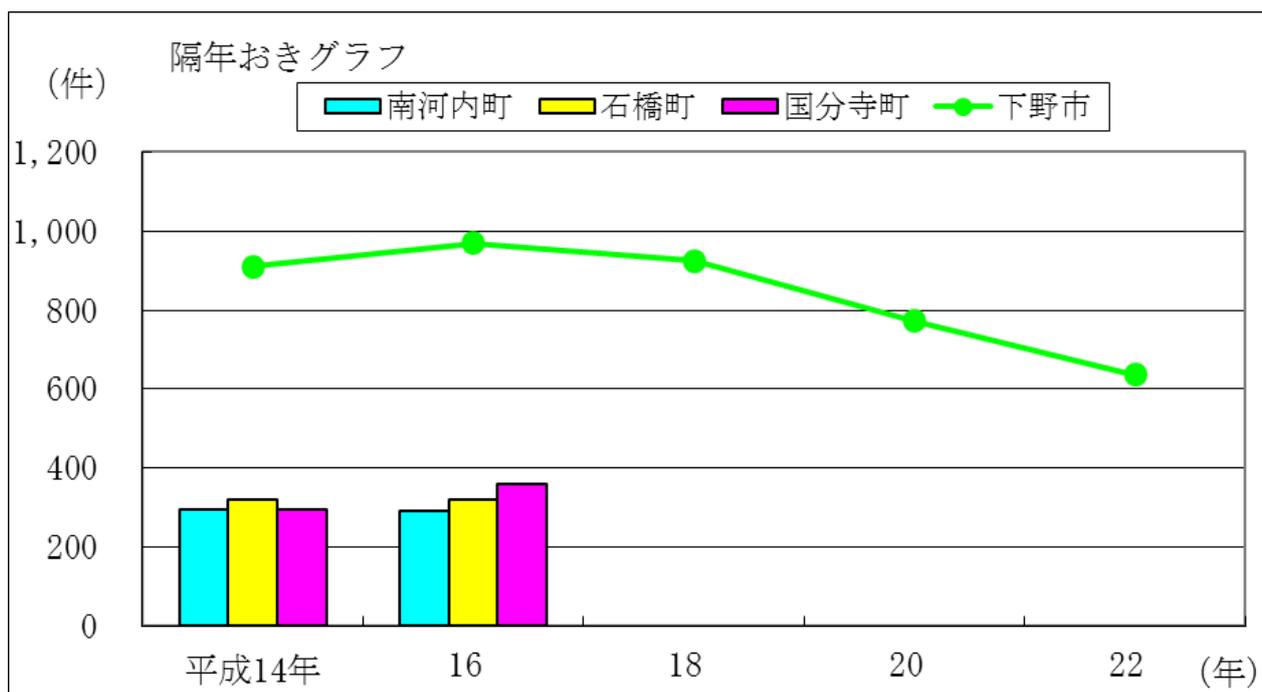
(4) 刑法犯認知件数

下野市の刑法犯認知件数推移をみると、平成21年（744件）の事件発生状況より平成22年（636件）は108件減少している。

刑法犯認知件数の推移

単位:件

年次	南河内町	石橋町	国分寺町	下野市
平成14年	296	321	294	911
16	291	320	358	969
17	214	273	273	760
18	—	—	—	925
19	—	—	—	840
20	—	—	—	772
21	—	—	—	744
22	—	—	—	636



※ 3町の合計を下野市として作成

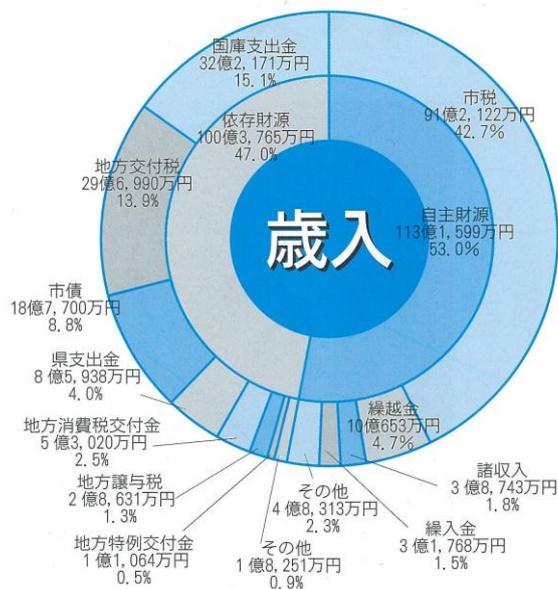
資料:犯罪概況書

※ 18年以降は下野市のみ

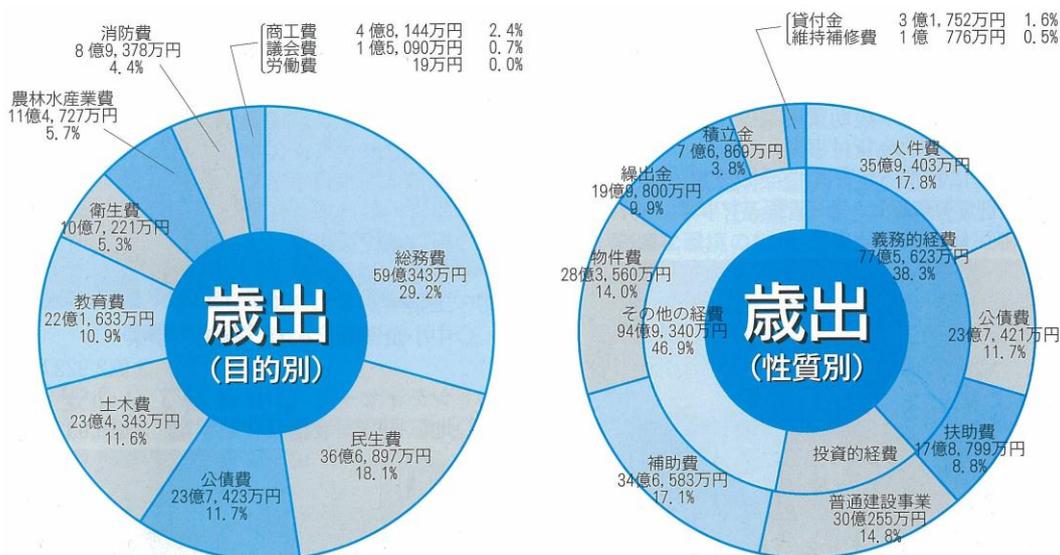
XI 財政

平成21年度一般会計決算額

歳入 213億5,364万円



歳出 202億5,218万円



●市民1人当たりにおける使われ方（平成22年3月31日現在 住民基本台帳人口 59,518人）



注) 事務の合理化、効率化を図るため人件費は総務費に一括して予算を計上しています。

■下野市の財政を家計簿にたとえると

下野市の平成21年度一般会計決算を「1ヵ月の家計簿」のイメージで作成しました。
収入・支出ともに決算額を家計の実情に近づけるため、3,000分の1にして、12ヵ月で割っています。

下野市の1ヵ月の家計簿							
[収入の部]				[支出の部]			
項 目	決算上の区分	金 額	割合	項 目	決算上の区分	金 額	割合
①給 料	市 税	253,000円	42%	①食費などの日常生活費	人 件 費	100,000円	17%
②パート収入	分担金・負担金・ 使用料・手数料・ 財産収入	13,000円	2%	②家族の医療費	扶 助 費	50,000円	9%
③親からの援助	交付税・譲与税・ 国県支出金など	227,000円	38%	③ローンの返済	公 債 費	66,000円	12%
④預金の取り崩し	繰 入 金	9,000円	2%	④家具・日用品の購入 や光熱水費など	物 件 費	79,000円	14%
⑤銀行等からの借入	市 債	52,000円	9%	⑤ガラスなどの修理	維 持 補 修 費	3,000円	1%
⑥前月からの繰越	繰 越 金	28,000円	5%	⑥自治会費や保険料	補 助 費 等	96,000円	17%
⑦雑収入	諸 収 入	11,000円	2%	⑦貯金積み立て	積 立 金	21,000円	4%
1ヵ月の収入合計 593,000円				⑧株などへの投資	投資及び出資金・ 貸 付 金	9,000円	2%
				⑨子供への仕送り	繰 出 金	56,000円	10%
				⑩家の増改築	普通建設事業費・ 災害復旧費など	83,000円	14%
				1ヵ月の支出合計 563,000円			

給料・パート・繰越・雑収入の自分達の収入は約51%で、残りは親の援助やローンの借入、預金の取り崩しで賄っているんだね。
これからは、親の援助も年々減ってくるから、もっとやりくりを考えていかないとイケないね。

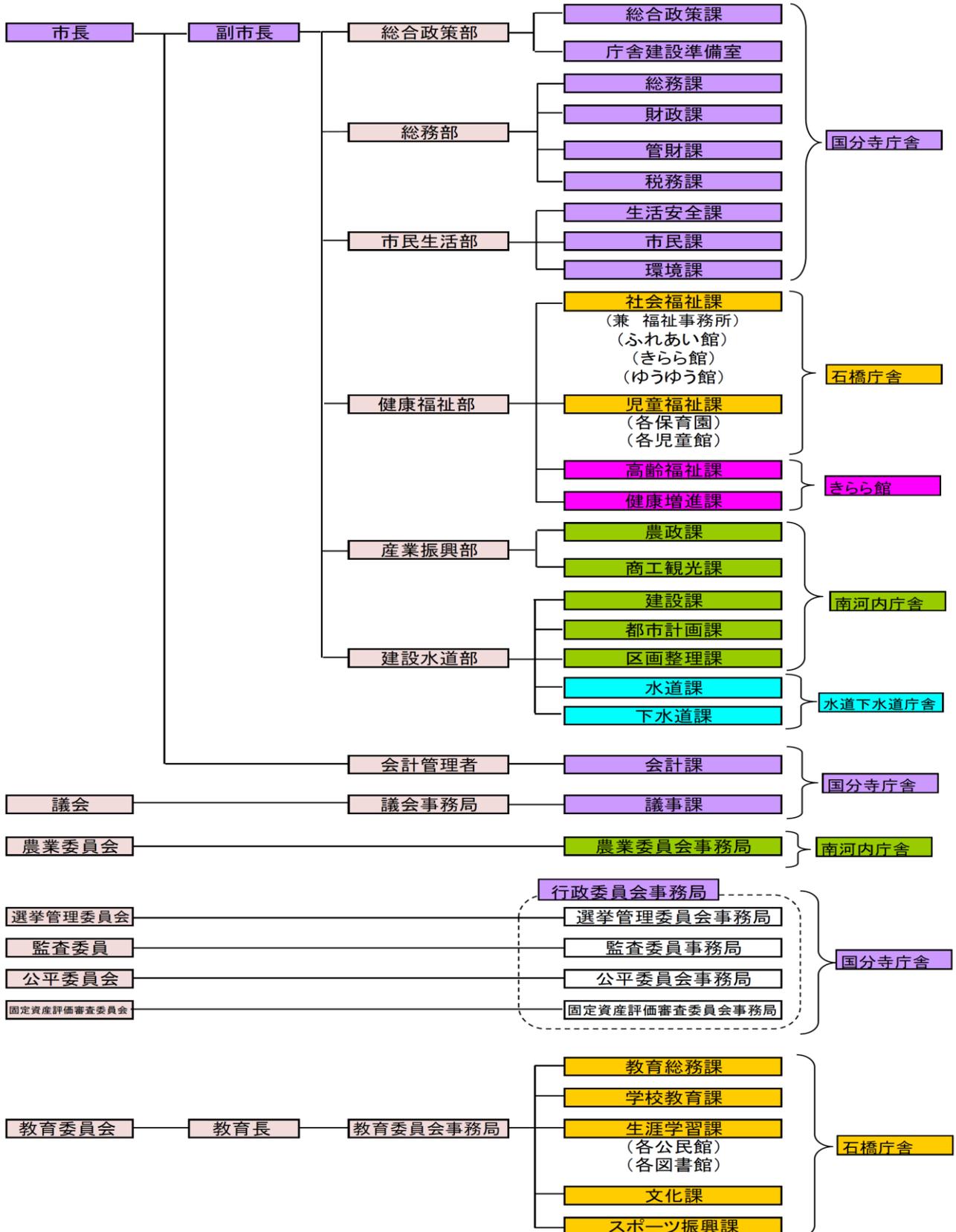


差引 30,000円 翌月へ繰越

XII 行政

下野市行政機構図

平成23年4月1日現在



選挙人名簿登録者数(平成22年12月2日現在)

投票区別(在外選挙人を除く)

投票区	投票所名	男	女	計
第1投票区	薬師寺小学校体育館	900	924	1,824
第2投票区	仁良川コミュニティセンター	753	795	1,548
第3投票区	祇園小学校体育館	1,419	1,373	2,792
第4投票区	町田公民館	175	182	357
第5投票区	谷地賀公民館	241	258	499
第6投票区	南河内東公民館	379	392	771
第7投票区	絹板台公民館	412	416	828
第8投票区	吉田西小学校体育館	232	220	452
第9投票区	吉田東小学校ミーティングルーム	360	396	756
第10投票区	南河内第二中学校ミーティングルーム	1,136	1,267	2,403
第11投票区	緑小学校体育館	1,993	2,007	4,000
第12投票区	石橋庁舎(駐車場内プレハブ室)	1,110	1,145	2,255
第13投票区	石橋小学校(学童保育室)	859	836	1,695
第14投票区	中大領構造改善センター	362	345	707
第15投票区	古山小学校	1,931	2,026	3,957
第16投票区	石橋北小学校	1,478	1,428	2,906
第17投票区	細谷小学校	386	396	782
第18投票区	石橋商工会館	1,513	1,572	3,085
第19投票区	石橋公民館	687	718	1,405
第20投票区	国分寺駅西児童館	1,271	1,367	2,638
第21投票区	国分寺小学校体育館	948	950	1,898
第22投票区	国分寺公民館	802	817	1,619
第23投票区	国分寺西小学校体育館	518	491	1,009
第24投票区	関根井公民館	665	674	1,339
第25投票区	旧保健センター(国分寺図書館隣)	829	885	1,714
第26投票区	国分寺武道館	955	1,020	1,975
第27投票区	コミュニティセンター東方館	729	759	1,488
第28投票区	医大前コミュニティセンター(古館公園内)	426	484	910
合 計		23,469	24,143	47,612

衆議院小選挙区別(在外選挙人を除く)

第1区	旧南河内町(第1～11投票区)	8,000	8,230	16,230
第4区	旧石橋町(第12～19投票区)	8,326	8,466	16,792
	旧国分寺町(第20～28投票区)	7,143	7,447	14,590
	第4区計(第12～28投票区)	15,469	15,913	31,382

在外選挙人名簿登録者数

第1区	旧南河内町	9	10	19
第4区	旧石橋町	3	4	7
	旧国分寺町	3	5	8
	第4区計	6	9	15
合 計		15	19	34